

地方独立行政法人りんくう総合医療センター

令和4年度（第12期事業年度）に係る業務の実績に関する評価結果

令和5年8月

泉佐野市

目 次

	ページ数
1 年度評価の方法	1
2 全体評価	
(1) 評価結果と判断理由	2
(2) 全体評価にあたって考慮した事項	2
3 大項目評価	
3-1 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項	
(1) 評価結果と判断理由	4
(2) 大項目評価にあたって考慮した事項	5
(3) 評価委員会の意見、指摘等	6
3-2 業務運営の改善及び効率化に関する事項	
(1) 評価結果と判断理由	7
(2) 大項目評価にあたって考慮した事項	7
(3) 評価委員会の意見、指摘等	7
3-3 財務内容の改善に関する事項	
(1) 評価結果と判断理由	8
(2) 大項目評価にあたって考慮した事項	8
(3) 評価委員会の意見、指摘等	9
3-4 その他業務運営に関する重要事項	
(1) 評価結果と判断理由	9
(2) 大項目評価にあたって考慮した事項	10
(3) 評価委員会の意見、指摘等	10

1 年度評価の方法

地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）第 28 条第 1 項の規定に基づき、地方独立行政法人りんくう総合医療センター（以下「法人」という。）の令和 4 年度（第 12 期事業年度）の業務の実績に関する評価を、地方独立行政法人りんくう総合医療センター評価委員会（以下「評価委員会」という。）の意見等を踏まえて、次のとおり行った。

（1）評価の基本方針

中期目標及び中期計画の達成状況等を踏まえ、法人の業務運営等について多面的な観点から総合的に評価を行い、法人の継続的な質的向上に資するものとし、業務運営の改善や効率化等の特色ある取組や様々な工夫を積極的に評価するものとする。また、評価を通じて、中期目標及び中期計画の達成に向けた取組状況等を市民にわかりやすく示すものとする。

（2）評価の方法

評価は、「項目別評価」（小項目評価及び大項目評価）と「全体評価」により行う。

「項目別評価」では、法人の小項目ごとの自己評価をもとに、実施状況等の事実確認、法人のヒアリング等を通じて、年度計画に照らし合わせて進捗状況を確認するとともに、法人の自己評価の妥当性の検証、評価を行う。

「全体評価」では、「項目別評価」の結果等を踏まえつつ、また、法人化を契機とした病院改革の取組みなども考慮しながら、中期計画等の進捗状況について総合的な評価を行う。

なお、上記（1）評価の基本方針及び（2）評価の方法については、平成 23 年 8 月 31 日評価委員会において決定した「地方独立行政法人りんくう総合医療センターに対する評価の基本方針」及び「地方独立行政法人りんくう総合医療センターの年度評価実施要領」を踏襲したものである。

（3）大項目評価の基準

S……中期目標・年度計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。

（特に認める場合）

A……中期目標・年度計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。

（すべての項目がⅢ～Ⅴ）

B……中期目標・年度計画の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる。

（Ⅲ～Ⅴの割合が9割以上）

C……中期目標・年度計画の達成のためにはやや遅れている。

（Ⅲ～Ⅴの割合が9割未満）

D……中期目標・年度計画の達成のためには重大な改善事項がある。

（特に認める場合）

2 全体評価

(1) 評価結果と判断理由

地方独立行政法人となり第3期中期計画の第2年次である令和4年度（第12期事業年度）において、**年度計画及び中期計画の達成に向けて計画どおり進捗している。**

大項目評価において、4つの大項目全てでA評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断したものである。

各計画項目の取組み状況としては、新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」という。）が影響し、計画遂行には引き続き厳しい環境であったが、長期にわたり院内感染対策を徹底し、多くの感染症患者の治療や検査にあたるなど病院の総力を挙げて対応するとともに、地元医師会、検疫所、保健所、府・市などと連携協力し、地域での感染対策の指導的役割を果たすなど、地域の医療体制の維持に努め、効率的な病院運営に継続して取り組んでいる。

財務状況としては、医業収益は新型コロナの影響を引き続き受けたものの、診療単価が引き続き高水準だったことなどにより、過去最高の収益であった前年度（143億6,000万円）をさらに上回り150億9,300万円となったほか、新型コロナに係る病床確保補助金などが継続されたことにより、一定収入が確保できたため、経常利益で10億3,700万円の黒字を計上し、当期純利益は7億8,900万円となっている。

また、キャッシュ・フローでは、材料費や人件費などの支出が増となったほか、補助金等収入が減となったため、期末資金残高は16億4,700万円となり、前年度と比較して3億500万円減となったが、診療報酬改定WGを設置し、施設基準の積極的な取得など診療単価の向上に努めたほか、医薬品等の継続的な価格交渉や全ての委託業務を検証し、契約の手法や仕様を見直すなど、新たな収入を確保し、費用の節減にも努めている。

地域医療を支える中核病院として、新型コロナの感染状況に対応した機動的な病院運営に努め、救急医療や高度専門医療の提供体制を強化するとともに、地域で求められる医療にも対応し、地域医療支援病院としての役割を果たしていることから、総体的には、新型コロナの影響を受け、引き続き厳しい状況であったが、中期計画に沿った運営がなされていると認められる。

今後、新型コロナが5類に移行したことで、各種補助金や診療報酬の臨時特例が段階的に見直されていく中、医師の働き方改革により人件費の増加等が予想されるため、引き続き、経営改善の取組等を推進し、安定した経営基盤の確立に努められたい。

(2) 全体評価にあたって考慮した事項

- ① 新型コロナへの対応では、重症患者等を含めた陽性患者の受入態勢を整備し、病院の総力を挙げて特定感染症指定医療機関としての役割を果たすとともに、大阪府からの病床確保要請に対しても、地域の医療体制の維持に努め、地元医師会、検疫所、保健所、府・市などと連携協力し、地域での感染対策の指導的役割を果たしている。また、新型コロナの影響による受診控え等もあり、特に小児医療・

周産期医療では患者数が伸び悩んでいるが、ハイリスク分娩や新型コロナ陽性妊婦の入院・出産では、大阪府内全域から患者を引き受けており、その機能を十分に果たしている。

- ② 新型コロナの影響を引き続き受けたものの、医業収益では、入院・外来とも患者数がかなり回復したことや、診療単価も高水準であった前年をさらに上回ったことで過去最高の収益となり、経常収支比率は 105.7%、医業収支比率は 87.6% となり、ともに目標を達成している。

また、キャッシュ・フローでは、医業収入が前年度より大幅に増となったが、材料費等の支出が増となったほか、新型コロナ関連補助金等が減となったことから、期末資金残高は前年度比 3 億 500 万円減の 16 億 4,700 万円となっている。

- ③ 高度専門医療では、泉州地域の循環器疾患の治療需要に対応すべく、大阪大学と連携してスタッフを充実させ、心房細動等の難治性不整脈に対するカテーテルアブレーション（経皮的カテーテル心筋焼灼術）の実施件数を飛躍的に増加させている。また、外科系領域では、手術支援ロボット：ダヴィンチの導入に向け、看護師などコメディカルスタッフ内にロボット手術チームを新設するなど、令和 6 年度からの運用を計画しているロボット手術のスムーズな開始に備えており、手術支援ロボット導入を契機に、前立腺癌だけでなく、消化器癌、肺癌の手術症例増加が大いに期待できる。

- ④ 医療環境の変化に対応し、経営基盤を支える組織体制を構築するため「内部統制本部・内部統制課」を設置し、内部監査を強化するなどコンプライアンスの推進に努めている。また、災害、事故、テロ対策をはじめ、近年、増加傾向にあるランサムウェアなどのサイバー攻撃対策など、あらゆる危機に対応するため危機管理室の設置に取り組んでいる。

- ⑤ アメリカ Newsweek 誌の World's Best Hospitals 2023 日本版に選出されたことについては、著名な医療専門家による推薦や利用患者の満足度をはじめ、病院の衛生対策、患者の安全対策、治療の質などが高く評価された結果であり、大変光栄であるとともに、引き続き、質の高い医療の提供に努められたい。

3 大項目評価

3-1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果から、**A評価（計画どおり進んでいる）**とする。
- 28項目の小項目評価のうち、災害医療・救急医療①及び②、高度医療・先進医療の提供①及び③、患者中心の医療⑤、地域の医療機関との連携の6項目でIV評価となっており、22項目がIII評価となっている。
- 災害医療については、災害拠点病院として、コロナ禍においても災害対策本部設営訓練の実施回数を増やしているほか、関係機関と連携した訓練を継続して実施しており、地域と連携した災害対策への取組を評価した。救急医療については、大阪府の要請を受け、新型コロナ第7波が急拡大した8月以降、新型コロナ患者受入病床数を増床し、新型コロナ重症患者を受入れながら、二次救急、三次救急の搬送依頼にも最大限対応しており、地域の三次救急医療機関としての役割を十分果たしている。

高度専門医療では、大阪大学と連携してスタッフを充実させ、心房細動等の難治性不整脈に対するカテーテルアブレーション（経皮的カテーテル心筋焼灼術）の実施件数を飛躍的に増加させている。また、外科系領域では、看護師などコメディカルスタッフ内にロボット手術チームを新設するなど、令和6年度からの運用を計画しているロボット手術のスムーズな開始に備えている。

患者中心の医療としては、引き続き、地域の関係者との連携を強化し、診断から治療、在宅へと地域全体で医療・保健・福祉サービスを切れ目なく提供していくことで、在宅復帰の支援を行うとともに、医療機関との連携については、がん診療地域連携パスの累積運用件数は、大阪府がん診療拠点病院では、引き続き1番実績が多いなど、地域医療支援病院としての役割を果たしており、紹介率・逆紹介率も高水準を維持している。

- 新型コロナの対応においては、大阪府の要請を受け、新型コロナ患者の最大限の受入を行い、二次救急においては、地域の医療体制を維持するため、搬送依頼に対し最大限の受入に努めている。また、大阪府や本市の感染対策の協力要請などにも積極的に対応し、地域の医療・高齢者・保育施設や近隣の自治体へも研修や情報提供など、感染対策の指導的な役割を果たしていることなどを踏まえ、大項目評価としてA評価が妥当であると判断する。

<小項目評価の集計結果>

項目	評価項目数	I 大幅に 下回る	II 計画を 下回る	III 計画を順 調に実施	IV 計画を 上回る	V 大幅に 上回る
1 質の高い医療の提供	8			4	4	
2 医療水準の向上	4			4		
3 患者・住民サービスの向上	14			13	1	
4 地域医療機関等との連携強化	2			1	1	
合計	28	0	0	22	6	0

<大項目評価結果>

A……中期目標・年度計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。
(すべての項目がⅢ～Ⅴ)

(2) 大項目評価にあたって考慮した事項

- ① 【1 (1) 災害医療・救急医療①】について、災害拠点病院として必要な医療救護活動等が実施できるよう、関係機関と連携した訓練や、院内での災害対策本部設営訓練回数を増やすなど、各種訓練を重ねることにより知識や能力の向上に努めている。また、DMATの体制充実を図り、災害に備えた万全な体制を維持しており、小項目評価ではⅣ評価としたものである。
- ② 【1 (1) 災害医療・救急医療②】について、救急医療においては、新型コロナウイルス感染患者を受け入れながら、地域の医療体制を維持するため二次救急、三次救急の搬送依頼に対し、最大限の受け入れに努めており、小項目評価ではⅣ評価としたものである。
- ③ 【1 (3) 高度医療・先進医療の提供①】について、高度専門医療では、大阪大学と連携してスタッフを充実させ、心房細動等の難治性不整脈に対するカテーテルアブレーション（経皮的カテーテル心筋焼灼術）の実施件数を飛躍的に増加させている。また、外科系領域では、手術支援ロボット：ダヴィンチの導入に向け、看護師などコメディカルスタッフ内にロボット手術チームを新設するなど、令和6年度からの運用を計画しているロボット手術のスムーズな開始に備えており、手術支援ロボット導入を契機に、前立腺癌だけでなく、消化器癌、肺癌の手術症例増加が大いに期待できる。

- ④ 【1 (3) 高度医療・先進医療の提供③】について、急性心筋梗塞や大動脈緊急症については、心臓・血管センターにおいて冠動脈形成術や大動脈緊急手術を中心に、迅速に高度救急医療を提供しており、りんくう総合医療センター及び救命ICU等の利用や高度検査機器により速やかに診断するなど、心臓・血管センターとしてトップレベルの診療機能を維持していることから、小項目評価ではIV評価としたものである。
- ⑤ 【3 (2) 患者中心の医療⑤】について、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築に貢献するため、医師会、歯科医師会、訪問看護ステーション、地域包括支援センターなど地域の関係機関との連携を強化し、診断から治療、在宅へと地域全体で医療・保健・福祉サービスを切れ目なく提供していくことで、在宅復帰の支援を行っている。また、入退院に関して多職種による患者サポートを行うとともに、病床管理を一元化して効果的・効率的な退院・転院調整をコントロールするなど、患者が安心して療養できる環境づくりに努めており、小項目評価ではIV評価としたものである。
- ⑥ 【4 (1) 地域の医療機関との連携】について、地域連携クリニカルパスを活用し、地域の医療機関と積極的に情報共有を行い、患者の視点に立った、安心で質の高い医療を提供する体制を構築し、がん診療地域連携パスの累積運用件数は、大阪府がん診療拠点病院では、引き続き1番目に多い実績となるなど、地域医療支援病院としての役割を果たしており、紹介率は67.7%、逆紹介率は163.4%と何れも高水準を維持していることから、小項目評価ではIV評価としたものである。

(3) 評価委員会の意見、指摘等

- ① 紹介率・逆紹介率ともに高い数値であり、地域医療支援病院としての役割を果たしている。現在、国において、地域におけるかかりつけ医機能の充実強化に向けた制度整備が進められている中、2035年問題もあり、地域医療体制の中核を担う病院として、地域の医療機関との連携をこれまで以上に強化し、地域全体の医療の質向上に努められたい。
- ② 地域の中核病院として、高度専門医療の豊富な手術症例や、それらの治療がこの地域で受けられることのメリットなど、ホームページ等により市民に分かりやすく周知することに加え、医療連携を行う地域の医療機関に対しても、これまで以上に集患を意識した情報発信に努められたい。

3-2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果から、**A評価（計画どおり進んでいる）**とする。
- 9項目の小項目のうち、職員の職務能力の向上②でIV評価となっており、8項目がIII評価となっている。
- 人材育成方針、人材育成計画の策定に着手し、事務局では計画的なジョブローテーションを行うための人材育成に努めたほか、業務マニュアルを整備している。また、医療職の専門性の向上においては、ウェビナー形式での研修会の開催をはじめ、様々な研修機会を設けるなど、専門性の向上に努めていることなどを踏まえ、大項目評価としてA評価が妥当であると判断する。

<小項目評価の集計結果>

項目	評価項目数	I 大幅に 下回る	II 計画を 下回る	III 計画を順 調に実施	IV 計画を 上回る	V 大幅に 上回る
1 運営管理体制の強化	1			1		
2 効率的・効果的な業務運営	8			7	1	
合計	9	0	0	8	1	0

<大項目評価結果>

A……中期目標・年度計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。
（すべての項目がIII～V）

(2) 大項目評価にあたって考慮した事項

- ① 【2（3）職員の職務能力の向上②】について、医療職の資格取得や医療技術職についても専門性に応じた研修を実施するほか、職種横断的な研修体制を整備するなどチーム医療の充実に向け取り組んでいる。特に新型コロナの影響により、引き続き、研修会等がウェビナー形式で開催されたことで受講の機会が増え、旅費の削減ができた上に、より多くのスタッフが受講できている。また、看護局においては、コロナ禍により、一般病棟においてもより重症患者を受け入れた経験を生かし、急変対応の充実を目指した新たなワーキング体制としたほか、エキスパート研修をオンラインで実施できるよう準備を整えるなど、周辺地域を巻き込んだ看護の質向上に努めており、小項目評価ではIV評価としたものである。

(3) 評価委員会の意見、指摘等

- 特になし

3-3 財務内容の改善に関する事項

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果から、**A評価（計画どおり進んでいる）**とする。
- 6項目の小項目のうち、費用の節減②がIV評価で、5項目がIII評価となっている。
- 令和4年度の財務状況としては、医業収益では入院・外来とも、新型コロナの影響を引き続き受けたものの、患者数がかなり回復したこと、また、診療単価も高水準であった前年をさらに上回ったことにより、過去最高の収益であった前年度をさらに上回る収益をあげている。医業収益以外の収益については、新型コロナに係る補助金が継続されたことにより、一定の収入は確保できている。一方、費用面では、応援医師に係る給与費の増、主に注射薬など材料費が増となったものの、経常利益で10億3,700万円の黒字を計上し、当期純利益は7億8,900万円となった。各目標値については、医業収益の増などにより、経常収支比率が105.7%、医業収支比率が87.6%となり、ともに目標を達成している。
- キャッシュ・フローでは、材料費等の支出が増となったほか、新型コロナ関連補助金等が減となったが、医業収入が前年度より大幅に増となり、期末資金残高を16億4,700万円確保したことなどを踏まえて、大項目評価としてはA評価が妥当であると判断する。

<小項目評価の集計結果>

項目	評価項目数	I 大幅に 下回る	II 計画を 下回る	III 計画を順 調に実施	IV 計画を 上回る	V 大幅に 上回る
1 資金収支の改善	1			1		
2 収入の確保と費用の節減	5			4	1	
合計	6	0	0	5	1	0

<大項目評価結果>

A……中期目標・年度計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。
（すべての項目がIII～V）

(2) 大項目評価にあたって考慮した事項

- ① 【2(2) 費用の節減②】について、後発医薬品使用率は92.2%で、高いレベルを維持しているほか、引き続き、高額医薬品の取り扱いには十分注意するように啓蒙するなど医薬品使用の無駄を無くす取組みを進めるとともに、特に、高額医薬品の後発品であるバイオシミラーを導入し、費用の削減に努めており、小項目評価ではIV評価としたものである。

(3) 評価委員会の意見、指摘等

- ① 令和4年度は新型コロナウイルス感染症関連の補助金が無ければ赤字であり、令和5年度以降は同補助金が縮小・廃止されていくほか、エネルギー価格等の高騰が続いており、今後、病院経営は厳しい状況が見込まれる。

節電等コスト削減にも限界があるため、計画されている手術支援ロボットやハイブリット手術室を効果的に活用し、急性期医療を中心とした高度専門医療の提供により集患を図るなど、引き続き、経営改善の取組等を推進し、安定した経営基盤の確立に努められたい。

3-4 その他業務運営に関する重要事項

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果から、**A評価（計画どおり進んでいる）**とする。
- 4項目の小項目のうち、感染症対策がIV評価となり、3項目がIII評価となっている。
- 感染症対策では、新型コロナの対応において、院内感染を抑制し、多くの感染症患者の治療や検査にあたるなど病院の総力を挙げて対応するとともに、地域の中核病院として、また、特定感染症指定医療機関として、地元医師会、検疫所、保健所、府・市などと連携協力し、地域での感染対策の指導的役割を果たしている。また、医療環境の変化に対応し、経営基盤を支える組織体制を構築するため「内部統制本部・内部統制課」を設置し、内部監査を強化するなどコンプライアンスの推進に努めている。また、災害、事故、テロ対策をはじめ、近年、増加傾向にあるランサムウェアなどのサイバー攻撃対策など、あらゆる危機に対応するため危機管理室の設置に取り組んでいることなどを踏まえ、大項目評価としてA評価が妥当であると判断する。

<小項目評価の集計結果>

項目	評価項目数	I 大幅に 下回る	II 計画を 下回る	III 計画を順 調に実施	IV 計画を 上回る	V 大幅に 上回る
1 感染症対策	1				1	
2 国際医療交流拠点づくり地域活性化総合特区の活用及び協力	1			1		
3 コンプライアンスの推進	1			1		
4 地域医療構想への対応	1			1		
合計	4	0	0	3	1	0

<大項目評価結果>

A……中期目標・年度計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。
(すべての項目がⅢ～Ⅴ)

(2) 大項目評価にあたって考慮した事項

- ① 【1 感染症対策】について、新型コロナへの対応としては、「地域外来・検査センター（PCRセンター）」において、近隣病院や保健所から依頼に応じた PCR 検査や新型コロナワクチン接種業務を継続して実施している。また、院内感染対策を徹底し、多くの感染症患者の治療にあたるとともに、陽性患者、特に重症患者等も積極的に受け入れるために体制整備を図るなど、病院の総力を挙げて新型コロナに対応し、特定感染症指定医療機関としての役割を果たしている。加えて、地域での感染対策の指導的な役割を果たすため、地元医師会、検疫所、保健所、市などと連携協力しながら体制を整備し、感染症に対応しており、小項目評価ではⅣ評価としたものである。

(3) 評価委員会の意見、指摘等

- 特になし

地方独立行政法人りんくう総合医療センター

令和4年度（第12期事業年度）における業務実績に関する評価結果

参考資料：小項目評価

令和5年8月

泉佐野市

項目別の状況

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する取り組み

1 質の高い医療の提供

(1) 災害医療・救急医療

中期目標	大規模災害や近接する関西国際空港での事故などに備え、災害拠点病院としての役割を充実させるとともに、災害等の際には、市の要請に応じて必要な医療を提供すること。また、重症救急や地域の医療機関で重症化した患者を幅広く着実に受け入れられる体制を確保し、地域の救急医療を担っていくこと。
------	--

中期計画	年度計画	令和4年度事業実績		泉佐野市	
		評価の判断理由（実施状況等）	自己評価	評価	コメント
<p>①災害医療</p> <p>災害拠点病院として、関係機関と連携協力を図りながら、必要な医療救護活動及び救急医療活動を実施する。</p> <p>非常時にも継続して医療提供できるよう、平時から各種研修・訓練の実施、災害対策マニュアルの点検及び必要物品等の備蓄確認を徹底するとともに、DMAT（災害派遣医療チーム）の体制充実を図り、災害に備えた万全な体制を維持する。</p>	<p>①災害医療</p> <p>災害拠点病院として、関係機関と連携協力を図りながら、必要な医療救護活動及び救急医療活動を実施する。</p> <p>非常時にも継続して医療提供できるよう、平時から各種研修・訓練の実施、災害対策マニュアルの点検及び必要物品等の備蓄確認を徹底するとともに、DMAT（災害派遣医療チーム）の体制充実を図り、災害に備えた万全な体制を維持する。</p>	<p>①災害医療</p> <p>災害拠点病院として、関係機関と連携協力を図りながら、必要な医療救護活動及び救急医療活動を実施するため、非常時も継続して医療提供できるよう、平時から各種研修・訓練の実施、災害対策マニュアルの点検及び必要物品等の備蓄確認を徹底するとともに、DMATの体制充実を図り、災害に備えた万全な体制を維持した。</p> <p>（訓練等活動実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関西国際空港航空機海上事故対策訓練（令和4年7月21日） ・ 災害時召集メール訓練(令和4年9月2日) ・ 院内防火防災訓練(令和4年12月16日) 	IV	IV	1

		<ul style="list-style-type: none"> ・近畿ブロック訓練(令和4年11月19日) ・衛星電話及び防災無線情報伝達訓練 (令和5年2月17日) ・災害対策本部設営訓練 (令和4年6月17日) (令和4年9月16日) (令和5年3月17日) 			
<p>②救急医療</p> <p>ドクターヘリやドクターカーを活用し、重症救急や地域の医療機関で重症化した患者を幅広く着実に受け入れる救急医療体制を整備し、「断らない救急」をめざす。</p> <p>地域の三次救急医療機関として、メディカルコントロール（MC）による病院前医療救護体制を含む、泉州地域の救急</p>	<p>②救急医療</p> <p>ドクターヘリやドクターカーを活用し、重症救急や地域の医療機関で重症化した患者を幅広く着実に受け入れる救急医療体制を整備し、新型コロナウイルス患者への対応の中で可能な限り「断らない救急」をめざす。</p> <p>地域の三次救急医療機関として、メディカルコントロール（MC）による病院</p>	<p>②救急医療</p> <p>新型コロナウイルス感染患者を受け入れながら、地域の医療体制を維持するため二次救急、三次救急の搬送依頼に対し、最大限の受け入れに努めた。</p> <p>地域の三次救急医療機関として引き続き病院前医療救護の質を保証するため、メディカルコントロール協議会において救命士の行う病院前救護に関する活動内容の検証や</p>	IV	IV	2
【関連指標】					
区 分		令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	
日本DMAT		医 師	8 人	10 人	7 人
		看護師	13 人	14 人	14 人
		事務等	7 人	9 人	8 人
大阪DMAT		医 師	8 人	7 人	5 人
		看護師	20 人	17 人	18 人
		事務等	12 人	10 人	10 人

<p>医療体制の強化に向けて中心的役割を果たす。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>令和元年度実績値</th> <th>令和7年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急患者応需率 (りんくう分)</td> <td>91.6%</td> <td>90.0%</td> </tr> <tr> <td>救急患者応需率 (救命救急センター分)</td> <td>89.7%</td> <td>90.0%</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	令和元年度実績値	令和7年度目標値	救急患者応需率 (りんくう分)	91.6%	90.0%	救急患者応需率 (救命救急センター分)	89.7%	90.0%	<p>前医療救護体制を含む、泉州地域の救急医療体制の強化に向けて中心的役割を果たす。</p>	<p>教育や指導の実施について中心的役割を果たした。</p> <p>また、救急救命士法の改正に対応するため、救急救命士運用委員会を設置し、救急救命士の運用について検討を行っている。</p>																							
	区 分	令和元年度実績値	令和7年度目標値																															
救急患者応需率 (りんくう分)	91.6%	90.0%																																
救急患者応需率 (救命救急センター分)	89.7%	90.0%																																
<p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>令和2年度実績値</th> <th>令和3年度実績値</th> <th>令和4年度目標値</th> <th>令和4年度実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急患者応需率 (りんくう分)</td> <td>90.7%</td> <td>86.0%</td> <td>90.0%</td> <td>85.7%</td> </tr> <tr> <td>救急患者応需率 (救命救急センター分)</td> <td>87.4%</td> <td>77.5%</td> <td>85.0%</td> <td>76.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【関連指標】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>令和2年度実績値</th> <th>令和3年度実績値</th> <th>令和4年度実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急外来患者数</td> <td>8,198 人</td> <td>10,019 人</td> <td>11,339 人</td> </tr> <tr> <td>うち救急車搬送患者数</td> <td>4,517 人</td> <td>6,019 人</td> <td>6,041 人</td> </tr> <tr> <td>うち救急入院患者数</td> <td>3,366 人</td> <td>3,804 人</td> <td>3,830 人</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	令和2年度実績値	令和3年度実績値	令和4年度目標値	令和4年度実績値	救急患者応需率 (りんくう分)	90.7%	86.0%	90.0%	85.7%	救急患者応需率 (救命救急センター分)	87.4%	77.5%	85.0%	76.4%	区 分	令和2年度実績値	令和3年度実績値	令和4年度実績値	救急外来患者数	8,198 人	10,019 人	11,339 人	うち救急車搬送患者数	4,517 人	6,019 人	6,041 人	うち救急入院患者数	3,366 人	3,804 人	3,830 人			
区 分	令和2年度実績値	令和3年度実績値	令和4年度目標値	令和4年度実績値																														
救急患者応需率 (りんくう分)	90.7%	86.0%	90.0%	85.7%																														
救急患者応需率 (救命救急センター分)	87.4%	77.5%	85.0%	76.4%																														
区 分	令和2年度実績値	令和3年度実績値	令和4年度実績値																															
救急外来患者数	8,198 人	10,019 人	11,339 人																															
うち救急車搬送患者数	4,517 人	6,019 人	6,041 人																															
うち救急入院患者数	3,366 人	3,804 人	3,830 人																															

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する取り組み

1 質の高い医療の提供

(2) 小児医療・周産期医療

中期目標 安心安全な分娩・子どもの育成を確保するため、地域医療機関との連携及び役割分担をし、周産期医療体制の維持及び小児医療体制の充実を図ること。また、泉州広域母子医療センターは、機能の強化と運営の安定化に努めること。

中期計画	年度計画	令和4年度事業実績		泉佐野市	
		評価の判断理由（実施状況等）	自己評価	評価	コメント
<p>①小児医療</p> <p>地域の医療機関との連携及び役割分担のもと、小児医療体制の充実を図る。関係医療機関と共同で行う病院群輪番制により、小児救急医療体制を維持し、入院患者を中心に受入れる。</p>	<p>①小児医療</p> <p>地域の医療機関との連携及び役割分担のもと、小児医療体制の充実を図る。関係医療機関と共同で行う病院群輪番制により、小児救急医療体制を維持し、入院患者を中心に受入れる。</p>	<p>①小児医療</p> <p>小児一般医療においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度に外来・入院患者ともに、約半数まで減少し、以降その状況が継続している。</p> <p>小児救急医療においては、泉州二次医療圏小児輪番体制における当番担当日に重症患者中心に受け入れ、休日・夜間診療については泉州南部初期急病センターへ医師を派遣した。また、乳幼児の二次健診（すこやか健診）を引き続き近隣市町から受託した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児科医師数 <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度 4月1日現在7人 令和3年度 4月1日現在7人 令和4年度 4月1日現在9人 ・小児科新入院患者数 <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度 295人 令和3年度 327人 令和4年度 323人 ・小児救急輪番受診患者数 <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度 218人 令和3年度 283人 令和4年度 176人 	III	III	3

		※令和4年度から輪番日変更 第2・4日曜日⇒第2日曜日			
<p>②周産期医療</p> <p>地域医療機関との役割分担のもと、NICU（新生児集中治療室）等を適切に運用し、ハイリスクな出産、合併症妊婦、疾病新生児、早期産児等への安心・安全な周産期医療を提供するとともに、泉州広域母子医療センターの安定的な運営を図る。</p>	<p>②周産期医療</p> <p>地域医療機関との役割分担のもと、NICU（新生児集中治療室）等を適切に運用し、ハイリスクな出産、合併症妊婦、疾病新生児、早期産児等への安心・安全な周産期医療を提供するとともに、泉州広域母子医療センターの安定的な運営を図る。</p>	<p>②周産期医療</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大のなか、地域周産期母子医療センターとして安心・安全な周産期医療をめざし、NICU等を適切に運用することにより、ハイリスクな出産、合併症妊娠、疾病新生児、早期産児等を積極的に受け入れた。分娩件数は614件で対前年度に比べ若干減少したが、ハイリスク分娩件数は484件と分娩件数の79%に達し、当院が行う周産期センター機能としての役割を十分に果たした。</p> <p>また、当院は大阪府内で先駆けて実施していた新型コロナウイルス陽性妊婦の自然分娩での出産を昨年度同様受入れ、感染症専門医、小児科医師、助産師等スタッフの連携により、感染拡大することなく対応し、新型コロナウイルスパンデミック以来183例の症例を扱った。</p> <p>妊産婦の満足度向上のため、妊産婦食や祝い膳、食器改善、カフェインレス飲料提供サービス等を行った。また、出産された祝い品として当院オリジナルのおくるみの提供も継続させた。</p> <p>・産婦人科新入院患者数</p>	Ⅲ	Ⅲ	4

		<p>令和2年度 985人 令和3年度 917人 令和4年度 888人</p> <p>・妊婦健診実施件数</p> <p>令和2年度 8,395件 令和3年度 8,802件 令和4年度 8,803件</p> <p>・産婦人科診療相互援助システム (OGCS)を介する母体搬送受入件数</p> <p>令和2年度 124件 令和3年度 171件 令和4年度 136件</p>																															
<p>【関連指標】</p>																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1176 790 1615 877">区 分</th> <th data-bbox="1619 790 1787 877">令和2年度 実績値</th> <th data-bbox="1792 790 1960 877">令和3年度 実績値</th> <th data-bbox="1964 790 2128 877">令和4年度 実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1176 880 1615 925">小児科救急外来患者数</td> <td data-bbox="1619 880 1787 925">250人</td> <td data-bbox="1792 880 1960 925">329人</td> <td data-bbox="1964 880 2128 925">209人</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1176 928 1615 973">うち小児科救急入院患者数</td> <td data-bbox="1619 928 1787 973">31人</td> <td data-bbox="1792 928 1960 973">48人</td> <td data-bbox="1964 928 2128 973">26人</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1176 976 1615 1021">NICU(新生児集中治療室)患者数</td> <td data-bbox="1619 976 1787 1021">1,594人</td> <td data-bbox="1792 976 1960 1021">1,628人</td> <td data-bbox="1964 976 2128 1021">1,343人</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1176 1024 1615 1069">分娩件数</td> <td data-bbox="1619 1024 1787 1069">624件</td> <td data-bbox="1792 1024 1960 1069">667件</td> <td data-bbox="1964 1024 2128 1069">614件</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1176 1072 1615 1117">うち帝王切開</td> <td data-bbox="1619 1072 1787 1117">177件</td> <td data-bbox="1792 1072 1960 1117">167件</td> <td data-bbox="1964 1072 2128 1117">166件</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1176 1120 1615 1165">うちハイリスク分娩</td> <td data-bbox="1619 1120 1787 1165">481件</td> <td data-bbox="1792 1120 1960 1165">523件</td> <td data-bbox="1964 1120 2128 1165">484件</td> </tr> </tbody> </table>						区 分	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	小児科救急外来患者数	250人	329人	209人	うち小児科救急入院患者数	31人	48人	26人	NICU(新生児集中治療室)患者数	1,594人	1,628人	1,343人	分娩件数	624件	667件	614件	うち帝王切開	177件	167件	166件	うちハイリスク分娩	481件	523件	484件
区 分	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値																														
小児科救急外来患者数	250人	329人	209人																														
うち小児科救急入院患者数	31人	48人	26人																														
NICU(新生児集中治療室)患者数	1,594人	1,628人	1,343人																														
分娩件数	624件	667件	614件																														
うち帝王切開	177件	167件	166件																														
うちハイリスク分娩	481件	523件	484件																														
<p>備考：ハイリスク分娩とは、早産、高齢出産、多胎出産、妊娠糖尿病などの合併症で危険性の高い分娩をいう。</p>																																	

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する取り組み

1 質の高い医療の提供

(3) 高度医療・先進医療の提供

中期 目標	地域の医療機関と連携のもと、4疾病（がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病）を中心に、高度急性期及び急性期機能を担う病院として、民間レベルでは不採算となる高度かつ先進的な医療の提供を追求するとともに医療の効率化を図り、地域の医療水準の向上に貢献していくこと。
----------	---

中期計画	年度計画	令和4年度事業実績		泉佐野市	
		評価の判断理由（実施状況等）	自己評価	評価	コメント
<p>①高度専門医療の提供</p> <p>ハイブリッド手術及びロボット手術の導入により、高度専門医療を提供すると同時に合併症が軽減され低侵襲で安全、安心な医療を提供する。また、急性期医療を安定して提供するため、医療スタッフの専門資格取得の促進や分野ごとの専門スタッフの育成、最新の治療技術の導入など、高度で専門的な医療の提供に積極的に取り組む。</p>	<p>①高度専門医療の提供</p> <p>内科的・外科的な急性期医療を安定して提供するため、医療スタッフの専門資格取得の促進や分野ごとの専門スタッフの育成、最新の治療技術の導入など、高度で専門的な医療の提供に積極的に取り組む。</p>	<p>①高度専門医療の提供</p> <p>循環器領域においては、泉州地域の循環器疾患の治療需要に対応すべく、大阪大学と連携してスタッフの充実を図ってきた。特に、心房細動等の難治性不整脈に対するカテーテルアブレーション（経皮的カテーテル心筋焼灼術）を専門とする医師を確保し、アブレーション実施件数は飛躍的に増加した。外科系領域では、手術支援ロボット：ダヴィンチの導入に向け医師トレーニングを開始した。また、手術部看護師および臨床工学技師部門を含めたコメディカルスタッフ内にロボット手術チームを新設し、マニュアル作成や行動シミュレーションを行い、令和6年度開始を計画しているロボット手術のスムーズな開始に備えている。さらに、手術支援ロボット導入を契機に、前立腺癌だけでなく、消化器癌、肺癌の手術症例増加が大いに期待できる。</p>	IV	IV	5

<p>②がん</p> <p>大阪府がん診療拠点病院としての役割を果たし、手術、化学療法及び放射線治療を効果的に組合せた集学的治療を提供するとともに、相談体制及び緩和ケア体制を充実させる。また、ロボット手術の導入により安全、安心な医療を提供する。さらに、多職種によるチーム医療を推進することで、がん診療の水準の向上を図る。</p>	<p>②がん</p> <p>大阪府がん診療拠点病院としての役割を果たし、手術、化学療法及び放射線治療を効果的に組合せた集学的治療を提供するとともに、相談体制及び緩和ケア体制を充実させる。また、多職種によるチーム医療を推進することで、がん診療の水準の向上を図る。</p>	<p>②がん</p> <p>がん診療については、全ての癌関連診療科において質の高いがん診療を提供できるよう体制を整えており、当院は現在、大阪府がん診療拠点病院の認定を受けている。近い将来には国指定がん診療連携拠点病院の取得を大きな目標としている。</p> <p>消化器領域については以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食道癌・胃癌領域：令和2年から続くコロナ禍による検診受診率低下の影響もあり手術症例数は横ばいであった。しかし、当センターの上部消化管手術における内視鏡手術実施率は74%と高く、高度な内視鏡技術を誇っている。 ・大腸癌・直腸癌：コロナ禍の影響はほとんどなく下部消化管手術件数は年々増加している。この手術症例数増加に伴い、抗癌剤治療件数も増加し収益増加に大きく貢献している。下部消化管領域の内視鏡手術実施率も82%と高く、上部グループ同様、内視鏡手術の高い技術力を示している。 ・肝胆膵領域癌（膵癌、胆管癌、肝癌など）：肝胆膵領域癌の手術件数は増加している。この手術の内、肝胆膵高難度手術数も約30例維持できた。膵癌では術前化学（放射線）療法を実施しその後、根治切除を実施することで患者の予後改善を図っている。 ・抗がん剤治療について：当センターでの抗が 	<p>III</p>	<p>III</p>	<p>6</p>
--	--	---	------------	------------	----------

ん剤治療実施研修は年々増加しており（令和2年度＝4,585例、令和3年度＝4,629例、令和4年度＝4,948例）、コロナ禍の影響は受けなかった。また近年、免疫チェックポイント阻害剤を含めた抗がん剤レジメンの登録が増加している。その際、免疫チェックポイント阻害剤関連副作用を引き起こすリスクがある。当院では、その副作用に対する確・迅速に対応できるように irAE（免疫関連有害事象）チームをいち早く結成し、患者に投与前アンケート調査・問診などを行い、合併症の診断・治療に的確な診療科への受診手配など積極的に関わり、より安全ながん治療の実施に努めた。当該チームは泉州地域では当院のみである。

・**癌手術における周術期管理**：癌手術後の合併症を軽減すべく周術期口腔管理および癌（術前・術後）リハビリテーションを行うことに注力した。これらの周術期口腔管理促進により術後肺炎など合併症続発を予防することができる。今後は心臓血管外科手術、抗がん剤投与中の患者にも適応を広げ、より安全な治療の実施を目指す（周術期口腔管理の実施により収益的にも増収が十分に見込める）。がんリハビリテーションは令和4年度 16,034 単位と増加している。これらの周術期管理・リハビリの確実な実施により病院の収益増加に貢献できている。

・**地域医療関連**：近隣の開業医との連携を深め

		<p>るべく、新しい術式説明や成績を報告し新規患者の紹介を依頼した。また、地域住民に対しがん教育講演を行い当院のがん診療の高さをアピールし患者獲得に貢献した。</p> <p>・がん緩和医療：コロナ禍で開催できていなかった『がん緩和医療講習会』を2年ぶりに当院で開催し、史上最多33名の参加者を得た。</p> <p>・がん手術件数</p> <table border="0"> <tr> <td>胃がん</td> <td>令和2年度</td> <td>66件</td> </tr> <tr> <td></td> <td>令和3年度</td> <td>66件</td> </tr> <tr> <td></td> <td>令和4年度</td> <td>63件</td> </tr> <tr> <td>大腸がん</td> <td>令和2年度</td> <td>101件</td> </tr> <tr> <td></td> <td>令和3年度</td> <td>111件</td> </tr> <tr> <td></td> <td>令和4年度</td> <td>128件</td> </tr> <tr> <td>胆・膵領域がん</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>令和2年度</td> <td>22件</td> </tr> <tr> <td></td> <td>令和3年度</td> <td>25件</td> </tr> <tr> <td></td> <td>令和4年度</td> <td>38件</td> </tr> </table> <p>・がん患者リハビリテーション</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>令和2年度</td> <td>12,225 単位</td> </tr> <tr> <td></td> <td>令和3年度</td> <td>15,665 単位</td> </tr> <tr> <td></td> <td>令和4年度</td> <td>16,034 単位</td> </tr> </table>	胃がん	令和2年度	66件		令和3年度	66件		令和4年度	63件	大腸がん	令和2年度	101件		令和3年度	111件		令和4年度	128件	胆・膵領域がん				令和2年度	22件		令和3年度	25件		令和4年度	38件		令和2年度	12,225 単位		令和3年度	15,665 単位		令和4年度	16,034 単位			
胃がん	令和2年度	66件																																										
	令和3年度	66件																																										
	令和4年度	63件																																										
大腸がん	令和2年度	101件																																										
	令和3年度	111件																																										
	令和4年度	128件																																										
胆・膵領域がん																																												
	令和2年度	22件																																										
	令和3年度	25件																																										
	令和4年度	38件																																										
	令和2年度	12,225 単位																																										
	令和3年度	15,665 単位																																										
	令和4年度	16,034 単位																																										
<p>③脳卒中・急性心筋梗塞</p> <p>脳卒中、急性心筋梗塞等の循環器救急搬送患者の受入れ窓口の一元化のもと、早期治療およびハイブリッド手術</p>	<p>③脳卒中・急性心筋梗塞</p> <p>脳卒中、急性心筋梗塞等の循環器救急搬送患者の受入れ窓口の一元化のもと、早期治療および高度専門医療を提供す</p>	<p>③脳卒中・急性心筋梗塞</p> <p>脳卒中、循環器疾患の救急医療については、救命救急センターでの受入れ窓口一元化を引き続き継続し、確実な受入れ体制を維持した。</p>	IV	IV	7																																							

<p>等の高度専門医療を提供する。さらに、リハビリテーション部門等との連携を強化し診療機能の充実を図る。</p>	<p>る。さらに、リハビリテーション部門等との連携を強化し診療機能の充実を図る。</p>	<p>脳神経センターでは、SCU（脳卒中集中治療室）機能を備えた5階山側病棟を活用して重症の脳神経疾患に対応した。</p> <p>急性心筋梗塞や大動脈緊急症（循環器救急疾患含む）については、心臓・血管センターにおいて冠動脈形成術や大動脈緊急手術を中心に、迅速な高度救急医療を提供し、りんくう総合医療センターICU（集中治療室）/CCU（冠疾患治療室）及び救命ICUの利用や高度検査機器による速やかな診断を行い、心臓・血管センターとしてのトップレベルの診療機能を維持した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HCU入院患者数 <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度 793件 令和3年度 908件 令和4年度 947件 ・緊急心臓カテーテル件数 <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度 184件 うちPCI（心臓カテーテル治療）100件 令和3年度 248件うちPCI 140件 令和4年度 205件うちPCI 115件 ・機械的脳血栓回収療法 <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度 39件 令和3年度 47件 令和4年度 47件 ・t-PA（血栓溶解療法）症例 <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度 26件 			
--	--	---	--	--	--

		<p>令和3年度 21件 令和4年度 20件</p> <p>・心臓CT検査 令和2年度 433件 令和3年度 601件 令和4年度 813件</p> <p>・経皮的カテーテル心筋焼灼術（アブレーション）（各年1月～12月件数） 令和2年 26件 令和3年 66件 令和4年 121件</p> <p>・ペースメーカー（各年1月～12月件数） 令和2年 39件 令和3年 65件 令和4年 79件</p> <p>・心疾患リハビリテーション 令和2年度 14,900 単位 令和3年度 15,000 単位 令和4年度 14,416 単位</p> <p>・脳血管リハビリテーション 令和2年度 44,774 単位 令和3年度 39,075 単位 令和4年度 44,632 単位</p>			
--	--	--	--	--	--

<p>④糖尿病</p> <p>食事療法、運動療法、薬物療法等を組み合わせたチーム医療による教育入院を強化するとともに、合併症治療など専門的な医療を提供する。</p>	<p>④糖尿病</p> <p>食事療法、運動療法、薬物療法等を組み合わせたチーム医療による教育入院を強化するとともに、合併症治療など専門的な医療を提供する。</p>	<p>④糖尿病</p> <p>糖尿病については、チーム医療による食事療法、運動療法、薬物療法等を組み合わせ教育入院を実施した。糖尿病3大合併症の有無を評価するとともに、冠動脈疾患・抹消動脈疾患などの致命的な合併症の有無の評価も行い、糖尿病患者教育の質の向上を図り、合併症予防に努め、管理困難症例も含め紹介患者を確実に受け入れた。また、他診療科で入院した患者のうち、糖尿病コントロール不良の患者の血糖コントロールを共観科として担当した。特に妊娠糖尿病の患者を数多く受け入れ、治療・患者教育を行った。糖尿病センターでは引き続き、地域の糖尿病患者に対しての診療機能の強化・充実を図った。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、生活習慣病教室は一時中止、糖尿病教室は感染に注意しながら開催、教育入院の一部入院制限を行った。妊娠糖尿病患者および糖尿病合併妊婦の教育入院を担当した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病教室開催 <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度 18回参加人数 350人 令和3年度 19回参加人数 278人 令和4年度 18回参加人数 321人 ・糖尿病教育入院 <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度 176件 令和3年度 154件 令和4年度 162件 	<p>III</p>	<p>III</p>	<p>8</p>
--	--	--	------------	------------	----------

<p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>令和元年度実績値</th> <th>令和7年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん患者数</td> <td>1,850人</td> <td>1,900人</td> </tr> <tr> <td>脳血管障害患者数</td> <td>566人</td> <td>570人</td> </tr> <tr> <td>循環器疾患患者数</td> <td>1,750人</td> <td>1,750人</td> </tr> <tr> <td>糖尿病患者数</td> <td>235人</td> <td>300人</td> </tr> <tr> <td>がん手術件数</td> <td>733件</td> <td>800人</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	令和元年度実績値	令和7年度目標値	がん患者数	1,850人	1,900人	脳血管障害患者数	566人	570人	循環器疾患患者数	1,750人	1,750人	糖尿病患者数	235人	300人	がん手術件数	733件	800人	<p>・紹介予約件数</p> <p>令和2年度 416件</p> <p>令和3年度 395件</p> <p>令和4年度 392件</p> <p>・栄養指導件数</p> <p>令和2年度 1,813件</p> <p>令和3年度 1,985件</p> <p>令和4年度 1,904件</p>															
	区 分	令和元年度実績値	令和7年度目標値																															
がん患者数	1,850人	1,900人																																
脳血管障害患者数	566人	570人																																
循環器疾患患者数	1,750人	1,750人																																
糖尿病患者数	235人	300人																																
がん手術件数	733件	800人																																
	<p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>令和2年度実績値</th> <th>令和3年度実績値</th> <th>令和4年度目標値</th> <th>令和4年度実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん患者数</td> <td>1,703人</td> <td>1,655人</td> <td>1,730人</td> <td>1,651人</td> </tr> <tr> <td>脳血管障害患者数</td> <td>491人</td> <td>456人</td> <td>450人</td> <td>461人</td> </tr> <tr> <td>循環器疾患患者数</td> <td>1,459人</td> <td>1,834人</td> <td>1,460人</td> <td>2,072人</td> </tr> <tr> <td>糖尿病患者数</td> <td>216人</td> <td>186人</td> <td>200人</td> <td>217人</td> </tr> <tr> <td>がん手術件数</td> <td>607件</td> <td>619人</td> <td>600人</td> <td>595人</td> </tr> </tbody> </table> <p>備考：がん患者数、脳血管障害患者数、循環器疾患患者数、糖尿病患者数、外傷患者数、熱傷患者数は主傷病名による入院患者数</p>	区 分	令和2年度実績値	令和3年度実績値	令和4年度目標値	令和4年度実績値	がん患者数	1,703人	1,655人	1,730人	1,651人	脳血管障害患者数	491人	456人	450人	461人	循環器疾患患者数	1,459人	1,834人	1,460人	2,072人	糖尿病患者数	216人	186人	200人	217人	がん手術件数	607件	619人	600人	595人			
区 分	令和2年度実績値	令和3年度実績値	令和4年度目標値	令和4年度実績値																														
がん患者数	1,703人	1,655人	1,730人	1,651人																														
脳血管障害患者数	491人	456人	450人	461人																														
循環器疾患患者数	1,459人	1,834人	1,460人	2,072人																														
糖尿病患者数	216人	186人	200人	217人																														
がん手術件数	607件	619人	600人	595人																														

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する取り組み

2 医療水準の向上

(1) 医療職等の人材確保

中期目標	医療提供体制の安定化を図り、医療水準を向上させるため、優秀な医師、看護師、医療技術職等の確保に努めること。また、職員の健康を守り、一人ひとりが能力を最大限に発揮できるよう、働き方改革に対応するとともに、ワーク・ライフ・バランスの推進を図るなど、働きやすい病院づくりに取り組むこと。
------	--

中期計画	年度計画	令和4年度事業実績		泉佐野市	
		評価の判断理由（実施状況等）	自己評価	評価	コメント
<p>①医療職の確保と育成</p> <p>診療能力が高く資質の優れた医師をはじめ、チーム医療を推進するための多様な医療専門職について人材の確保に努める。また、研修棟機能を活用し、臨床研修医及び後期研修医を積極的に受け入れる。</p>	<p>①医療職の確保と育成</p> <p>診療能力が高く資質の優れた医師をはじめ、チーム医療を推進するための多様な医療専門職について人材の確保に努める。また、研修棟機能を活用し、臨床研修医及び後期研修医を積極的に受け入れる。</p>	<p>①医療職の確保と育成</p> <p>令和4年度の診療体制については、前年度4月1日の比較で常勤医師数は12名減、非常勤医師数は13名増、研修医数は2名増となっており、令和3年4月の148名から3名増でのスタートとなったが、医師確保に努めた結果、令和5年4月は5名増の156人の診療体制を整えることができた。</p> <p>初期研修医については、定員5名の枠がフルマッチの結果、1年目の初期研修医を採用することができた。</p>	Ⅲ	Ⅲ	9
<p>②ワーク・ライフ・バランスの推進</p> <p>職員満足度調査を定期的を実施し、職員ニーズを把握するとともに、ワーク・ライフ・バランスに配慮した、やりがいのある、働きやすい職場環境の実現に向け、就労環境の向上を図る。</p>	<p>②ワーク・ライフ・バランスの推進</p> <p>職員満足度調査を定期的を実施し、職員ニーズを把握するとともに、ワーク・ライフ・バランスに配慮した、やりがいのある、働きやすい職場環境の実現に向け、就労環境の向上を図る。</p>	<p>②ワーク・ライフ・バランスの推進</p> <p>ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境を実現するため、育児中の職員に対し院内保育所の利用促進や産前・産後休業、育児休業制度に加え、独自に設けた育児部分休業制度等内容について院内周知を図った。男性の出生時育児休業制度についても、令和4年10月から開始し、令和6年度開始の医師の働き方改革の推進のため、タスクシフト・タスクシェアなど病院全体で時間外勤務の縮減に努めた。</p>	Ⅲ	Ⅲ	10

		【関連指標】			
		区 分	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4度 実績値
		臨床研修医数（初期）	14人	12人	14人
		後期研修医数	22人	21人	29人
		医学生実習受入人数	61人	23人	57人
		看護学生実習受入人数	370人	284人	237人
		薬学生実習受入人数	6人	0人	5人
		放射線実地研修受入人数	8人	8人	12人
		救命士病院実習受入人数	237人	264人	207人
		職員満足度調査 (職場として勧めたいと思う割合)	30.2%	28.3%	28.3%

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する取り組み

2 医療水準の向上

(2) 施設、医療機器等の計画的な整備

中期 目標	病院建築後 20 年を迎えるなか、医療の安全性確保や診療機能充実に資する施設改修及び医療機器・設備等の更新については、計画的に整備していくこと。なお、医療機器の整備・更新については、費用対効果、地域の医療機関との連携、医療需要及び医療技術の進展等から総合的に判断すること。
----------	--

中期計画	年度計画	令和4年度事業実績		泉佐野市	
		評価の判断理由（実施状況等）	自己評価	評価	コメント

<p>①医療機器の更新・導入等</p> <p>保守点検の実施状況、使用状況、修理状況、購入年、費用対効果、地域の医療機関との連携状況、医療ニーズ及び医療技術の進展等を総合的に考慮して優先順位付けを行い、計画期間中に耐用期間を迎える機器を中心に更新する。複数診療科で使用され医業収益の改善に繋がるなど費用対効果が期待されるものについて新規導入を検討するとともに、高度で安全な医療の提供のためハイブリッド手術装置及び手術支援ロボットを導入する。</p> <p>医療法の規定に従い、膨大な数の医療機器情報の一元化を図る「医療機器管理システム」を構築し、効率的な整備を進め、機器の効果的な運用及び安全管理の徹底を図る。</p>	<p>①医療機器の更新・導入等</p> <p>保守点検の実施状況、使用状況、修理状況、購入年、費用対効果、地域の医療機関との連携状況、医療ニーズ及び医療技術の進展等を総合的に考慮して優先順位付けを行い、計画期間中に耐用期間を迎える機器を中心に更新する。</p> <p>医療法の規定に従い、膨大な数の医療機器情報の一元化を図る「医療機器管理システム」を構築し、効率的な整備を進め、機器の効果的な運用及び安全管理の徹底を図る。令和6年度中のシステム稼働に向けて、本年度はシステム構築のための作業を行う。</p>	<p>①医療機器の更新・導入等</p> <p>医療機器の更新については、各部署での保有機器の更新時期や効率・効果的な仕様を検証した上で、新たな取り組みとして、がん免疫細胞療法の一つであるCAR-T療法に必要な機器や、低侵襲心臓手術内視鏡システムを購入した。また、老朽化した生理検査データ管理システム等の更新を行った。本年度も大阪府の補助金等を活用し機器の整備に努めた。</p> <p>医療機器管理システムについては令和6年度中のシステム稼働に向けて、システムを導入し、引き続き機器の調査を行った。</p>	III	III	11
<p>②施設・設備の改修等</p> <p>対象工事の選定については、施設・設備の老朽化状況、役割機能、利用状況、重要性等を総合的に考慮して優先順位付けを行い、計画期間中に耐用年数を迎える設備面を中心に工事を実施する。</p>	<p>②施設・設備の改修等</p> <p>対象工事の選定については、施設・設備の老朽化状況、役割機能、利用状況、重要性等を総合的に考慮して優先順位付けを行い、計画期間中に耐用年数を迎える設備面を中心に工事を実施する。</p>	<p>②施設・設備の改修等</p> <p>対象工事の選定については、施設の老朽化状況、役割機能、利用状況、重要性等を総合的に考慮して優先順位付けを行い、令和4年度は手術室増室のため設計業務を実施。その他、電話交換機、受水槽、防犯カメラ、エスカレーターのステップ・チェーン等の更新を実施した。</p>	III	III	12

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する取り組み
 3 患者・住民サービスの向上
 (1) 診療待ち時間等の改善

中期
 目標 外来診療の待ち時間、検査・手術待ちの改善等に取り組むことにより、さらに患者サービスの向上に努めること。

中期計画	年度計画	令和4年度事業実績		泉佐野市	
		評価の判断理由（実施状況等）	自己評価	評価	コメント
外来診療の待ち時間、検査・手術待ちの現状を把握するとともに、患者やその家族等が院内で快適に過ごせるよう、必要な業務改善を図る。	外来診療の待ち時間、検査・手術待ちの現状を把握するとともに、患者やその家族等が院内で快適に過ごせるよう、自身のスマートフォンで診察待ちの状況が確認できるサービスの継続並びに「オンライン資格確認システム」による健康保険証及び限度額適用認定証等の資格確認手続きの円滑化など、必要な業務改善を図る。また、患者用の無料 Wi-Fi 接続サービスを開始しており、更なる利用向上に向け周知していく。	クオリティマネジメント委員会が待ち時間に対する実態調査を毎年実施し、その結果を各部署に伝達し改善に努めた。 地域の医療機関からの予約紹介については、毎月の「地域だより」や年4回発行の RINKU SMILE による広報やりんくうメディカルネットワークの開催を通して、顔の見える連携の取り組みにより、紹介予約を勧めるとともに、事前に患者カルテを作成することで効率的な受付を行っている。 また、スマートフォンで診察待ちの状況が確認できるサービスの継続及びオンライン資格確認システムの導入による健康保険証及び限度額適用認定証等の資格確認手続き円滑化などを実施し、業務の改善を図った。	III	III	13

		<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医からの紹介予約率 令和2年度 83.5% 令和3年度 85.5% 令和4年度 88.6% ・予約時間から診察までの待ち時間 対象患者 8,558人 予約患者 27分(前年度 24分) 			
--	--	---	--	--	--

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する取り組み
3 患者・住民サービスの向上
(2) 患者中心の医療

中期 目標	患者の権利を尊重し、インフォームド・コンセント（患者が自ら受ける医療の内容に納得し、自分に合った治療法を選択できるように、患者へのわかりやすい説明を行った上で、同意を得ること）を徹底するとともに、専門医療等に関して、必要な情報提供に努めること。
----------	--

中期計画	年度計画	令和4年度事業実績		泉佐野市	
		評価の判断理由（実施状況等）	自己評価	評価	コメント
①インフォームド・コンセントの徹底 治療の選択について患者の意思を尊重するため、インフォームド・コンセントを徹底し、患者及び家族の信頼と納得に基づいた診療を行う。	①インフォームド・コンセントの徹底 治療の選択について患者の意思を尊重するため、インフォームド・コンセントを徹底し、患者及び家族の信頼と納得に基づいた診療を行う。	①インフォームド・コンセントの徹底 職員一人ひとりがインフォームド・コンセントの重要性を認識し、実行できるように今年度も新規採用者研修や院内研修を継続して行った。 また、患者、家族等に病状や治療方法等を説明する際に医師とともに看護師が同席し、患者が安心して治療が受けられる運用を継	III	III	14

		<p>続した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者満足度調査（入院）のうち、 「医師による診療・治療内容」の満足度 令和4年度 4.66点/5段階評価 (前年度 4.58点/5段階評価) (他病院平均 4.48点/5段階評価) 			
<p>②セカンドオピニオンの強化</p> <p>患者及びその家族が、病状や治療法等について、主治医とは別の専門医に意見を聴くセカンドオピニオンを求めた場合に、適切に対応できるよう相談体制の強化に努める。また、医療相談窓口及びがん相談支援センターの機能の充実を図る。</p>	<p>②セカンドオピニオンの強化</p> <p>患者及びその家族が、病状や治療法等について、主治医とは別の専門医に意見を聴くセカンドオピニオンを求めた場合に、適切に対応できるよう相談体制の強化に努める。また、医療相談窓口及びがん相談支援センターの機能の充実を図る。</p>	<p>②セカンドオピニオンの強化</p> <p>セカンドオピニオン件数は12件で、複数の診療科において多岐にわたる相談を受けている。がん相談については、専任の看護師1名とMSW(医療相談員)1名体制で生活、心理面に関する相談を受けている。また、当院での治療後は当院の医師とかかりつけ医が共同で診る「地域連携パス」を利用し、患者がより安心して在宅での療養を受けられる説明を実施している。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症に対応するため、十分な感染対策を取ったうえでの相談体制の構築など従来の方法の見直しを図りつつ相談を行い、今年度は1,233件(前年度1,132件)の相談件数となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> がん診療連携パス 115件 (前年度 80件) 	Ⅲ	Ⅲ	15
<p>③クリニカルパスの推進</p> <p>入院患者に治療計画をわかりやすく理解してもらうため、クリニカルパスの</p>	<p>③クリニカルパスの推進</p> <p>入院患者に治療計画をわかりやすく理解してもらうため、クリニカルパスの</p>	<p>③クリニカルパスの推進</p> <p>入院患者に自らの疾患について、その内容・治療・看護等の治療計画をわかりやすく</p>	Ⅲ	Ⅲ	16

<p>充実を図る。</p>	<p>充実を図る。</p>	<p>理解してもらうため、院内のクリニカルパス委員会での検討を通じて、作成済みのクリニカルパス（入院患者に対する治療の計画を示した日程表）の点検や新たなクリニカルパスの作成を進めた。また、患者サポートセンターにおいて、入院前からの支援と退院支援の充実等により入退院に関する患者サポートを徹底し、患者サービスのより一層の向上につなげることができた。</p> <p><参考></p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリニカルパス適用率（救急科・救命診療科除く）58.8%（前年度 54.4%） 			
<p>④医療情報の提供の推進</p> <p>専門医療等に関する情報をはじめ、退院後の生活支援を含む患者の視点に立った医療情報について、ホームページ、SNS等様々なツールや機会を利用し、その提供に努める。</p>	<p>④医療情報の提供の推進</p> <p>専門医療等に関する情報をはじめ、退院後の生活支援を含む患者の視点に立った医療情報について、ホームページ、SNS等様々なツールや機会を利用し、その提供に努める。</p>	<p>④医療情報の提供の推進</p> <p>患者がいつでも見られるように冊子類として、財団等が発行するフリーの冊子や医療介護用品の情報誌等を適宜入れ替え更新している。図やイラストを用いた診療説明用紙を使用するなど、患者視点での分かりやすい資料提供を心がけている。</p> <p>また、患者の視点に立った医療情報についてホームページ等を利用し、その提供に努めた。</p>	<p>III</p>	<p>III</p>	<p>17</p>
<p>⑤患者サポートセンターの充実</p> <p>入退院に関して多職種による患者サポートを行うとともに、病床管理を一元化して効果的・効率的な退院・転院調整</p>	<p>⑤患者サポートセンターの充実</p> <p>入退院に関して多職種による患者サポートを行うとともに、病床管理を一元化して効果的・効率的な退院・転院調整</p>	<p>⑤患者サポートセンターの充実</p> <p>患者サポートセンターにおいて、引き続き入院決定時から退院までのフォローを関係する医療従事者によるチームで支援してい</p>	<p>IV</p>	<p>IV</p>	<p>18</p>

<p>をコントロールし、患者が安心して療養できる環境づくりに努める。</p>	<p>をコントロールし、患者が安心して療養できる環境づくりに努める。</p>	<p>くことで、きめ細かな医療サービスの提供を行い、医療の質と安全を推進した。また、病床管理を中央で一元化して退院・転院の調整を効果的・効率的にコントロールすることで、患者が安心して療養できるように配慮し、さらに、在宅診療医、訪問看護ステーションや介護事業所（ケアマネジャー）等と緊密に連携しながら、退院前カンファレンス等を積極的に行って円滑に退院できるよう患者の状況に応じた支援を行った。</p> <p>住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築に貢献するため、医師会、歯科医師会、訪問看護ステーション、地域包括支援センターなど地域の関係者との連携を強化し、診断から治療、在宅へと地域全体で医療・保健・福祉サービスを切れ目なく提供していくことで、在宅復帰の支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急入院対応 740 人（前年度 792 人） ・入退院支援加算算定件数 4,189 件（前年度 4,848 件） <p>（全入院患者 9,293 人にスクリーニングの上、介入が必要な患者 4,598 人に介入した。要件に合致する 4,189 件算定した。）</p> <p>入退院に関して多職種による患者サポートを行うとともに、病床管理を一元化して効</p>			
--	--	---	--	--	--

		果的・効率的な退院・転院調整をコントロールし、患者が安心して療養できる環境づくりに努めた。																																															
<p>⑥オンライン診療の研究</p> <p>診療報酬の改定内容を踏まえ、安全性・必要性・有効性の観点から、患者が安心して利用できるオンライン診療の提供のあり方について研究を進める。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>令和元年度 実績値</th> <th>令和7年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クリニカルパス適用率</td> <td>44.6%</td> <td>45.0%</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	令和元年度 実績値	令和7年度 目標値	クリニカルパス適用率	44.6%	45.0%	<p>⑥オンライン診療の研究</p> <p>診療報酬の改定内容を踏まえ、安全性・必要性・有効性の観点から、患者が安心して利用できるオンライン診療の提供のあり方について、国に設置されている「オンライン診療の適切な実施に関する指針の見直しに関する検討会」での議論を注視しつつ、研究を進める。</p>	<p>⑥オンライン診療の研究</p> <p>新型コロナウイルス感染症への対策として、小児科にてオンライン診療を実施したが、需要は少数であった。オンライン診療の場合、検査等の実施は困難であるため、診断を必要とする急性期病院での実施には限界もあるため、積極的に運用をすすめるのは困難な状況である。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>令和2年度 実績値</th> <th>令和3年度 実績値</th> <th>令和4年度 目標値</th> <th>令和4年度 実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クリニカルパス適用率</td> <td>44.4%</td> <td>47.3%</td> <td>45.0%</td> <td>50.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【関連指標】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>令和2年度 実績値</th> <th>令和3年度 実績値</th> <th>令和4年度 実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セカンドオピニオン実施件数</td> <td>6件</td> <td>7件</td> <td>12件</td> </tr> <tr> <td>がん相談支援センター相談件数</td> <td>1,078件</td> <td>1,132件</td> <td>1,233件</td> </tr> <tr> <td>クリニカルパス種類数</td> <td>282件</td> <td>247件</td> <td>251件</td> </tr> <tr> <td>クリニカルパス適用件数</td> <td>3,772件</td> <td>4,369件</td> <td>4,697件</td> </tr> <tr> <td>患者サポートセンター利用者数</td> <td>4,165人</td> <td>4,380人</td> <td>4,598人</td> </tr> <tr> <td>在宅復帰・病床機能連携率</td> <td>84.6%</td> <td>85.9%</td> <td>86.3%</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	クリニカルパス適用率	44.4%	47.3%	45.0%	50.5%	区 分	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	セカンドオピニオン実施件数	6件	7件	12件	がん相談支援センター相談件数	1,078件	1,132件	1,233件	クリニカルパス種類数	282件	247件	251件	クリニカルパス適用件数	3,772件	4,369件	4,697件	患者サポートセンター利用者数	4,165人	4,380人	4,598人	在宅復帰・病床機能連携率	84.6%	85.9%	86.3%	III	III	19
区 分	令和元年度 実績値	令和7年度 目標値																																															
クリニカルパス適用率	44.6%	45.0%																																															
区 分	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値																																													
クリニカルパス適用率	44.4%	47.3%	45.0%	50.5%																																													
区 分	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値																																														
セカンドオピニオン実施件数	6件	7件	12件																																														
がん相談支援センター相談件数	1,078件	1,132件	1,233件																																														
クリニカルパス種類数	282件	247件	251件																																														
クリニカルパス適用件数	3,772件	4,369件	4,697件																																														
患者サポートセンター利用者数	4,165人	4,380人	4,598人																																														
在宅復帰・病床機能連携率	84.6%	85.9%	86.3%																																														

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する取り組み
 3 患者・住民サービスの向上
 (3) 院内環境の快適性向上

中期 目標	医療ニーズの変化に的確に対応し、患者や来院者により快適な環境を提供するため、病室・待合スペースその他の施設改修・補修をきめ細かく実施するとともに、患者のプライバシー確保に配慮した院内環境の整備に努めること。
----------	---

中期計画	年度計画	令和4年度事業実績		泉佐野市	
		評価の判断理由（実施状況等）	自己評価	評価	コメント
患者や来院者に、プライバシー確保に配慮した、より快適な環境を提供するため、院内整理・清掃を徹底するとともに、施設・設備について計画的に改修・補修を行う。	患者や来院者に、プライバシー確保に配慮した、より快適な環境を提供するため、院内整理・清掃を徹底するとともに、施設・設備について計画的に改修・補修を行う。	<p>患者や来院者により快適な環境を提供するため、「ご意見箱」の意見や院内ラウンドにより院内の問題点を把握し必要な改善を図った。</p> <p>院内掲示物の整理については、既設の大型電光掲示板3台を活用し重要なお知らせを掲載している。なお、電光掲示板は外国語にも対応させている。また、病棟等掲示板を整備し直し、院内掲示物を整理した。</p> <p>今年度は電話交換機や受水槽、防犯カメラ、エスカレーターのステップ、チェーン等を改修するなど、快適な環境を提供するため計画的な改修・補修を行った。</p>	Ⅲ	Ⅲ	20

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する取り組み

3 患者・住民サービスの向上

(4) 職員の接遇向上

中期 目標	患者サービス、満足度の向上（安心感・信頼感）とともに、病院に対するイメージアップを図るため、職員一人ひとりが接遇の重要性を認識し、接遇向上に努めること。
----------	--

中期計画	年度計画	令和4年度事業実績		泉佐野市	
		評価の判断理由（実施状況等）	自己評価	評価	コメント
①患者サービスの向上 院内に設置している意見箱、患者アンケート及び医療相談等を通して、患者の意向をとらえ、サービスの向上につなげる。	①患者サービスの向上 院内に設置している意見箱、患者アンケート及び医療相談等を通して、患者の意向をとらえ、サービスの向上につなげる。	①患者サービスの向上 院内にご意見箱を設置し、投函された意見をクオリティマネジメント委員会で検証し、当該部署と共に改善策などをまとめ、回答を院内に掲示するとともに、病院ホームページにも引き続き掲載した。また、その内容については院内のイントラネットに掲示し職員を啓発し、苦情の減少に努めている。	Ⅲ	Ⅲ	21
②接遇研修の実施 接遇研修を開催し、全職員が常に患者や家族の立場に立ち、誠意を持った対応をすることに取組む。	②接遇研修の実施 接遇研修を開催し、全職員が常に患者や家族の立場に立ち、誠意を持った対応をすることに取組む。	②接遇研修の実施 コロナ禍となり、研修スタイルをeラーニングとDVD配布で実施した。医療人としての日常的な「接遇」について振り返る機会とするため、テーマを「医療スタッフとしての基本的な接遇マナー」として実施した。	Ⅲ	Ⅲ	22

【目標値】			【目標値】				
区分	令和元年度 実績値	令和7年度 目標値	区分	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値
患者満足度調査 外来（満足+やや満足）	81.6%	85.0%	患者満足度調査 外来（満足+やや満足）	77.9%	77.6%	82.0%	76.0%
患者満足度調査 入院（満足+やや満足）	90.2%	92.0%	患者満足度調査 入院（満足+やや満足）	89.0%	89.0%	90.5%	90.2%

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する取り組み

3 患者・住民サービスの向上

(5) 患者・住民への情報発信

中期 目標	市の保健担当部局が実施する事業（特に、小児医療・予防関係）に協力するとともに、病院に対する理解や医療・健康に対する関心を深めるため、診療情報、経営状況、医療及び健康に関する情報等について、パンフレット、ホームページや健康講座等による情報発信を積極的に行うこと。
----------	--

中期計画	年度計画	令和4年度事業実績		泉佐野市	
		評価の判断理由（実施状況等）	自己評価	評価	コメント
①市事業への協力 患者・住民の、医療・健康に対する関心及び病院への理解を深めるため、市の保健担当部局が実施する小児医療・予防関係をはじめとした事業への協力を努める。	①市事業への協力 患者・住民の、医療・健康に対する関心及び病院への理解を深めるため、市の保健担当部局が実施する小児医療・予防関係をはじめとした事業への協力を努める。	①市事業への協力 従来型の市民講座やイベントなどの開催が難しい中、広報やホームページを活用し、保健医療情報、予防医療や地域内での病院の機能や役割について情報発信を行い啓発に努めた。	Ⅲ	Ⅲ	23

<p>②様々な媒体による集患を意識した情報発信</p> <p>ホームページの見直しやSNSの活用方法の検討などを行い、様々な媒体を通じて、患者に選んでもらえる病院であるために必要な情報を発信する。</p>	<p>②様々な媒体による集患を意識した情報発信</p> <p>ホームページの見直しやSNSの活用方法の検討などを行い、様々な媒体を通じて、患者に選んでもらえる病院であるために必要な情報を発信する。</p>	<p>②様々な媒体による集患を意識した情報発信</p> <p>病院が発行する広報誌RINKU SMILEを年4回発行、最新の病院の取り組み等を情報配信した。</p> <p>またメディア等の取材ルールを整備し、新聞、雑誌、テレビなどメディア取材、受賞などをホームページ及びFacebookで公開するなど、病院情報の発信の拡充に努めた。</p>	Ⅲ	Ⅲ	24
--	--	--	---	---	----

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する取り組み

3 患者・住民サービスの向上

(6) 医療安全管理の徹底

中期目標	医療法をはじめとする関係法令等を遵守することはもとより、医療安全管理の基本的な考え方、事故防止の具体的な手法等を全職員に周知徹底し、職員個々の安全意識の向上を図り、住民に対して、安心な医療を将来にわたって提供していくこと。
------	---

中期計画	年度計画	令和4年度事業実績		泉佐野市	
		評価の判断理由（実施状況等）	自己評価	評価	コメント
<p>①医療安全対策の徹底と安全文化の醸成</p> <p>全職員が患者の安全を最優先に、万全な対応を行うことができるよう、医療安全に関する情報の収集や分析を行い、医療</p>	<p>①医療安全対策の徹底と安全文化の醸成</p> <p>全職員が患者の安全を最優先に、万全な対応を行うことができるよう、医療安全に関する情報の収集や分析を行い、医療</p>	<p>①医療安全対策の徹底と安全文化の醸成</p> <p>「全職員がインシデント・医療事故発生直後から丁寧に情報収集・分析することを強化し、医療安全対策に取り組む安全文化を醸成する」ことを目標に、今年度は全職員必須の</p>	Ⅲ	Ⅲ	25

<p>事故の予防に取り組む。また、院内で発生したインシデント・アクシデントについて、内容を分析し、全職員に周知し、再発防止に取り組む。</p>	<p>事故の予防に取り組む。また、院内で発生したインシデント・アクシデントについて、内容を分析し、全職員に周知し、再発防止に取り組む。</p>	<p>医療安全研修においてインシデントレポートをテーマに取り上げ、インシデントレポートの目的や意義、報告方法について研修を実施した。当院の課題でもある医師からのインシデントレポート報告数の改善にも効果がみられた。</p> <p>インシデント及びアクシデントに関する情報収集及び分析は、専従の医療安全管理者が中心となり当該部門の管理者と再発防止策について検討を実施、毎月開催される「医療安全推進部会」で報告している。職種横断的に検討が必要なインシデント及びアクシデントについては医療安全推進部会で検討し、各部門の責任者が出席する「医療の質と安全管理委員会」で発生状況や再発防止策を報告し、最終的な検討、承認を得て院内周知している。</p> <p>また、医療安全についての専門研修を受講・終了した医療安全管理者は医師 2 名、看護師 1 名となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会「インシデントレポートから安全文化の醸成へ」（参加者 865 人） ・研修会「医療安全対策に関する各部署からの報告」（参加者 820 人） ・インシデント報告件数 3,305 件 （前年度 3,410 件） ・アクシデント報告件数 24 件 			
---	---	---	--	--	--

		(前年度 32 件) ・医療安全ニュース発行 12 回 (前年度 9 回)			
②患者・家族等の安全及び職員の健康確保 感染源や感染経路などに応じた適切な院内感染予防策を実施し、院内感染対策を的確に行う。	②患者・家族等の安全及び職員の健康確保 感染源や感染経路などに応じた適切な院内感染予防策を実施し、院内感染対策を的確に行う。	②患者・家族等の安全及び職員の健康確保 院内感染予防対策として、感染制御チーム（ICT）および抗菌薬適正使用支援チーム（AST）において、医療関連感染の予防のための症例の調査、医師・看護師への助言や指導、医師への抗菌薬の使用支援を行うとともに、院内感染対策の更なる徹底を図ることを目的に全職種の職員を対象とした研修会（ICT/AST研修会）を開催した。また、終了時には、小テストによる理解度調査を行い、理解度の向上に努めるとともに、参加できない職員には DVD レンタル研修を実施した。 海外や他施設などから院内に持ち込まれる感染症の防止のため、外来部門等の協力を得て、院内感染対策マニュアルに基づいた報告の徹底を図るとともに、感染対策の基本である手指衛生の強化とマスク装着に努めた。 なお、平成31年1月にバンコマイシン耐性腸球菌（VRE）の院内感染が発生して以来、その感染対策に継続して取り組んだ結果、令和元年11月を最後に院内での新規陽性患者の発生を認めず、令和2年2月6日を	III	III	26

		<p>もって終息と判断したが、引き続き感染予防策並びにVRE監視体制を継続して実施した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症に対する院内の対策としては、勤務時のマスクの着用、すべての患者に接する際のアイシールドの着用、手指衛生の徹底、面会制限、症状の有無の確認の徹底などに努めた。職員間でのクラスター発生予防対策として、COVID-19流行期における職員の欠勤基準、勤務復帰基準を新たに設け、職員の健康管理の徹底に努めた。マスクなしでの会話が発生しやすい休憩室については机の配置、アクリル板設置など環境を確認し、安全な利用の仕方の検討と黙食の徹底に務めた。ICT/AST研修会の内容を「新型コロナウイルス感染症」とし、最新の科学的知見に基づいた適切な知識をスタッフに伝達することで、院内感染対策の更なる徹底を図った。</p> <p>研修方法を集合研修からeラーニングとDVDレンタル研修に変更し3密を避ける事を徹底した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症患者を受け入れる事が決定した際には、病棟のゾーニングの決定や個人防護具の着脱手順の作成、患者対応のマニュアル作成など受け入れ体制の構築を行った。患者受け入れ後は感染対策の</p>			
--	--	---	--	--	--

		<p>指導などを積極的に行った。職員や患者が発生した際には、濃厚接触者の洗い出しなどの初動対応をすぐさま行った。</p> <p>地域での感染対策の指導的な役割を果たすため、近隣地域の泉南市、熊取町、田尻町など近隣の自治体より依頼があり、高齢者・介護施設、保育施設に向けて「新型コロナウイルス感染症対策について」の研修を行った。泉佐野保健所主催の泉佐野保健所管轄内の医療施設対象の感染症対策連絡会や大阪府介護福祉部主催の泉佐野保健所管轄内の高齢者施設対象に研修会を実施した。泉佐野市からの依頼を受けて新型コロナウイルス抗体検査や高齢者等へのPCR検査に協力した。大阪府看護協会からの依頼を受け、中小施設のリンクナースの育成に対する協力や社会福祉施設のラウンドに参加し感染対策についての指導を行った。近隣病院における感染予防対策や感染対策実施状況などの情報共有や意見交換を目的とする合同カンファレンスを引き続き開催し、自施設で新型コロナウイルス感染症対応に結び付けられるようなテーマを選択しカンファレンスを行った。新型コロナウイルス感染症の流行を鑑み、オンラインでの開催を行った。また、泉州二次医療圏の施設を中心に感染防止対策地域連携の相互評価を行い、感染対策にか</p>			
--	--	--	--	--	--

		<p>かる項目について確認し評価を行った。</p> <p>上記のような取り組みを実施しているなか令和4年8月及び11月に当院内においてクラスターが発生したが、迅速かつ的確な初動対応等により感染拡大に至らず影響を最小限にとどめた。</p>																					
		<p>【関連指標】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>令和2年度 実績値</th> <th>令和3年度 実績値</th> <th>令和4年度 実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療の質と安全管理委員会の開催数</td> <td>12回</td> <td>12回</td> <td>12回</td> </tr> <tr> <td>研修会・学習会の開催数 (平均参加率)</td> <td>13回 (74.7%)</td> <td>10回 (75.3%)</td> <td>10回 (82.5%)</td> </tr> <tr> <td>院内感染対策委員会の開催数</td> <td>12回</td> <td>12回</td> <td>12回</td> </tr> <tr> <td>講演会・研修会の開催数 (平均参加率)※1</td> <td>2回 (69.3%)</td> <td>2回 (76.9%)</td> <td>2回 (83.5%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 令和2年度から研修形式をeラーニング及びDVD視聴（次回研修会までに視聴）とし、数値は3月31日時点である。</p>				区 分	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	医療の質と安全管理委員会の開催数	12回	12回	12回	研修会・学習会の開催数 (平均参加率)	13回 (74.7%)	10回 (75.3%)	10回 (82.5%)	院内感染対策委員会の開催数	12回	12回	12回	講演会・研修会の開催数 (平均参加率)※1	2回 (69.3%)
区 分	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値																				
医療の質と安全管理委員会の開催数	12回	12回	12回																				
研修会・学習会の開催数 (平均参加率)	13回 (74.7%)	10回 (75.3%)	10回 (82.5%)																				
院内感染対策委員会の開催数	12回	12回	12回																				
講演会・研修会の開催数 (平均参加率)※1	2回 (69.3%)	2回 (76.9%)	2回 (83.5%)																				

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する取り組み

4 地域医療機関等との連携強化

(1) 地域の医療機関との連携

中期 目標	地域の医療機関との連携及び協力体制の充実を図り、病病・病診連携を強化すること。連携強化にあたっては、紹介された患者の受入れ及び患者に適した医療機関への紹介を進め、紹介率及び逆紹介率の向上を図ること。
----------	---

中期計画	年度計画	令和4年度事業実績		泉佐野市	
		評価の判断理由（実施状況等）	自己評価	評価	コメント
<p>地域の医療機関のニーズを把握し、機能分担を明確にし、医師会等と協力して「なすびんネット（診療情報を相互共有できるネットワークシステム）」の活用を進めること等により、病病・病診連携を強化する。</p> <p>紹介患者の確実な受入れと患者に適した医療機関への紹介を行い、在宅復帰が円滑にいくよう地域医療支援病院としての機能を強化する。</p>	<p>地域の医療機関のニーズを把握し、機能分担を明確にし、医師会等と協力して「なすびんネット（診療情報を相互共有できるネットワークシステム）」の活用を進めること等により、病病・病診連携を強化する。</p> <p>紹介患者の確実な受入れと患者に適した医療機関への紹介を行い、在宅復帰が円滑にいくよう地域医療支援病院としての機能を強化する。</p>	<p>応需率向上のために、紹介患者の診察枠、検査枠を拡大し、紹介患者の受け入れやCT・MRIなどの高度医療機器の共同利用の促進により、検査を速やかに実施できる体制を整備した。</p> <p>地域連携クリニカルパスの拡充については、脳卒中地域連携パス(186件)、がん診療連携パス(115件)、大腿骨頸部骨折地域連携パス(7件)の活用により、地域医療機関との連携を強化した。特に、がん診療連携パスの累積運用件数は大阪府がん診療拠点病院では1番目に多い実績となっている。</p> <p>病病連携協議会の開催などにより、地域医療構想や地域包括ケアシステムへの対応などの情報共有を行った。また、介護施設や福祉関係機関とも必要に応じ、退院に際して関係職種とのカンファレンスを行うなどスムーズな連携構築に努めた。</p> <p>・南泉州地区病病連携協議会（部会含む）の開催1回</p>	IV	IV	27

【目標値】	令和元年度	令和7年度	【目標値】				
	実績値	目標値	区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和4年度
			紹介率	実績値	実績値	目標値	実績値
			逆紹介率				
	59.1%	56.0%	紹介率	72.2%	70.8%	56.0%	67.7%
	116.4%	108.0%	逆紹介率	163.8%	169.5%	108.0%	163.4%
備考：地域医療支援病院の基準は、紹介率 50%以上かつ逆紹介率 70%以上を満たすこと。							
【関連指標】							
			区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
				実績値	実績値	実績値	
			地域連携クリニカルパス実施件数	258 件	284 件	308 件	
			りんくう医療ネットワーク登録医数	387 人	387 人	386 人	

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する取り組み
 4 地域医療機関等との連携強化
 (2) 地域医療への貢献

中期目標 地域医療支援病院として、地域医療の水準向上及び地域医療機関や介護・福祉施設等との連携体制の強化を図るとともに、地域包括ケアシステムの中で、地域において切れ目なく在宅医療等につなげるため、的確な情報連携を図ること。また、市の保健担当部局が実施する事業（特に、小児医療・予防関係）に協力するとともに、健康講座の開催その他予防医療について住民啓発を推進すること。

中期計画	年度計画	令和4年度事業実績		泉佐野市	
		評価の判断理由（実施状況等）	自己評価	評価	コメント

<p>医療・介護・福祉機関等との連携強化を図り、関係機関相互のネットワークづくりに貢献し、地域包括ケアシステムの中で泉州地域の基幹病院（地域医療支援病院）として求められる役割を担う。</p>	<p>医療・介護・福祉機関等との連携強化を図り、関係機関相互のネットワークづくりに貢献し、地域包括ケアシステムの中で泉州地域の基幹病院（地域医療支援病院）として求められる役割を担う。</p>	<p>りんくうメディカルネットワーク等を開催し、良好な関係づくりに引き続き取り組むとともに、当院の診療状況や機能を紹介する「地域医療だより」を発行（12回）し、情報提供することで、地域の医療・介護・福祉機関等との連携の強化を図った。また、病病・病診間の診療情報を相互共有できるネットワークシステム（なすびんネット）を引き続き、運用を拡大した。さらに診療科ごとに、特性や強みが分かるパンフレットを作成し、連携医療機関を訪問することにより地域医療連携の機能強化を図った。</p> <p>地域の医療従事者を対象とした研修会として、りんくうカンファレンス（4回）を開催した。新型コロナウイルス感染症の影響により開催回数は減少した。なお、泉州地域医療フォーラムについては、新型コロナウイルス感染症の影響により今年度は開催されなかった。</p> <p>また、りんくうメディカルネットワークについては、新型コロナウイルス感染症の状況によりWEB配信による開催となったが、医師会との連携に継続して取り組んだ。</p> <p>・第9回：令和4年10月1日（土） （ZOOMによるWEB開催）</p> <p>看護職員研修については、新型コロナウイルス感染症の影響により、地域医療機関研修生受入研修会の開催を中止した。</p>	<p>Ⅲ</p>	<p>Ⅲ</p>	<p>28</p>
---	---	--	----------	----------	-----------

		【関連指標】			
		区分	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値
		りんくうカンファレンス開催数	2回	3回	4回
		クリニカルレベルアップセミナー開催数	1回	0回	0回
		地域医療機関研修生受入（看護師）研修会開催数	0回	1回	0回

第2 業務運営の改善及び効率化に関する取り組み
1 運営管理体制の強化

中期 目標	外部評価を活用し、病院の基本理念や使命を全職員が理解したうえで、経営状況や問題点を共有し、効率的かつ効果的な業務運営の改善を組織全体で図ること。
----------	--

中期計画	年度計画	令和4年度事業実績		泉佐野市	
		評価の判断理由（実施状況等）	自己評価	評価	コメント
全ての職員が病院の基本理念、基本方針、経営状況及び課題を共有し、自律的に運営を行う組織風土を醸成し、外部評価等を踏まえ業務の改善及び効率化を図る。	全ての職員が病院の基本理念、基本方針、経営状況及び課題を共有し、自律的に運営を行う組織風土を醸成し、外部評価等を踏まえ業務の改善及び効率化を図る。	運営管理体制について、理事長を中心に外部理事及び監事を含めた理事会を毎月第3木曜日に開催し、病院運営上の方針、課題などについて意見交換や討議などにより年度計画に基づく業務運営の管理を行った。ま	Ⅲ	Ⅲ	29

<p>各部門が専門性を発揮し、医療環境の変化に的確かつ迅速に対応し、経営基盤を支える組織体制を構築する。</p>	<p>各部門が専門性を発揮し、医療環境の変化に的確かつ迅速に対応し、経営基盤を支える組織体制を構築する。本年度は、「内部統制本部・内部統制課」の設置などをはじめとした組織再編を行う。</p>	<p>た、病院としては、病院幹部で構成される幹部会、各部門の代表が参加する運営会議、診療科部長会などを定例開催し、経営状況等の報告、課題の共有、情報交換を行った。</p> <p>組織再編として、医療環境の変化に対応し、経営基盤を支える組織体制を構築するため「内部統制本部・内部統制課」を設置しコンプライアンスの推進に努めた。また、災害、事故、テロ、サイバー攻撃等あらゆる危機に対応するため危機管理室の設置に取り組んだ。</p>			
--	---	---	--	--	--

第2 業務運営の改善及び効率化に関する取り組み
 2 効率的・効果的な業務運営
 (1) 目標管理の徹底

<p>中期 目標</p>	<p>中期目標等を着実に達成できるよう、各種指標の目標値を設定し、PDCAサイクルによる効果検証、業務プロセスの改善など、目標管理を徹底すること。</p>
------------------	---

中期計画	年度計画	令和4年度事業実績		泉佐野市	
		評価の判断理由（実施状況等）	自己評価	評価	コメント
<p>①PDCAサイクルによる本計画の着実な達成 毎月の収支報告、病院の経営分析、本</p>	<p>①PDCAサイクルによる本計画の着実な達成 毎月の収支報告、病院の経営分析、本</p>	<p>①PDCAサイクルによる本計画の着実な達成 毎月の稼働報告、各診療科の活動状況等に</p>	<p>III</p>	<p>III</p>	<p>30</p>

<p>計画の進捗状況管理などにより、業務運営の改善を継続的に行う。また、進捗に遅れが出ている場合は、原因の分析と解決方法の検討を行う。</p>	<p>計画の進捗状況管理などにより、業務運営の改善を継続的に行う。また、進捗に遅れが出ている場合は、原因の分析と解決方法の検討を行う。</p>	<p>については、医療マネジメント課から病院統計として速報版・確定版を作成し、幹部をはじめ関係者へ速やかに情報提供した。</p> <p>また、入院稼働率、診療単価、平均在院日数等収入の重要な基本的指標や月次決算報告については、理事会、幹部会、診療科部長会、運営会議等で報告し、目標管理の徹底を実施した。</p>			
<p>②各診療科における達成すべき目標の設定</p> <p>医業収益の向上のため、各診療科において目標を設定し、その達成に向けて取組を進めるとともに、複数診療科または多職種にまたがるような案件については、各種院内委員会において検討する。</p>	<p>②各診療科における達成すべき目標の設定</p> <p>医業収益の向上のため、各診療科において目標を設定し、その達成に向けて取組を進めるとともに、複数診療科または多職種にまたがるような案件については、各種院内委員会において検討する。</p>	<p>②各診療科における達成すべき目標の設定</p> <p>各診療科及び各部門で年度目標を作成し、その達成方策や部門の抱える課題・解決策について共有できるようにした。また、各委員会での抱える課題については、委員会担当幹部が委員会報告を集約し、目標管理を行うとともに、病院全体として検討が必要な議題は幹部会で提案する仕組みを引き続き運用した。</p>	III	III	31
<p>③職員の病院運営参画への意識の向上</p> <p>本計画の、具体的な数値の達成状況等を含む事業報告を広く周知することにより、職員の病院運営への参画意識の向上を図る。</p>	<p>③職員の病院運営参画への意識の向上</p> <p>本計画の、具体的な数値の達成状況等を含む事業報告を広く周知することにより、職員の病院運営への参画意識の向上を図る。</p>	<p>③職員の病院運営参画への意識の向上</p> <p>本計画の目的を達成するため、病院運営上の課題等については、月2回開催される幹部会で、改善策等の方針決定や再検討の指示などスピーディな審議を行った。</p> <p>また、病院運営に関する最新情報や決定方針等については、運営会議等を通じて周知するとともに、イントラネット、メール配信を活用するなど工夫をした情報発信を行い、職員の病院運営への参画意識の向上に努めた。</p>	III	III	32

第2 業務運営の改善及び効率化に関する取り組み

2 効率的・効果的な業務運営

(2) 人事給与制度

中期目標	職員の努力が評価され、業績や能力を的確に反映した人事・昇任管理等を行えるよう、人材育成及びモチベーション向上につながる公正で客観的な人事評価システムの改善を行うこと。また、人材確保などに配慮したうえで、給与水準の見直しや時間外勤務手当等の適正化を図るとともに、適正な職員配置に努めること。
------	--

中期計画	年度計画	令和4年度事業実績		泉佐野市	
		評価の判断理由（実施状況等）	自己評価	評価	コメント
①人事評価システムの改善 職責に応じた職員の努力が正当に評価される人事評価システムを、早急に検討し、運用を始める。	①人事評価システムの改善 職責に応じた職員の努力が正当に評価される人事評価システムの検討を進める。	①人事評価システムの改善 人事評価システムの改善については、人材育成方針・人材育成計画で策定される各職種、職階で必要となる評価基準が明確になったうえで改善に向けた検討を開始することとした。	III	III	33
②公平で適正な人事給与制度の導入 新しく導入する人事評価システムのもと、職責に応じた勤務成績を反映することにより働きがいを実感できるとともに、法人の業務実績に応じた公平で適正な人事給与制度を導入する。	②公平で適正な人事給与制度の導入 新しく導入する人事評価システムのもと、職責に応じた勤務成績を反映することにより働きがいを実感できるとともに、法人の業務実績に応じた公平で適正な人事給与制度の令和7年度中の本格実施に向けて、ワーキングチームにおいて協議を進める。	②公平で適正な人事給与制度の導入 人材育成方針・人材育成計画で策定される各職種、職階で必要となる評価基準が明確になったうえで人事評価システムの改善とともに公平で適正な人事給与制度の導入に向けた検討を開始することとした。 なお、今年度は国が進める看護職員の処遇改善の一環として「看護職員等処遇改善手当」を継続するなど、適正な給与制度の整備に努めている。	III	III	34

第2 業務運営の改善及び効率化に関する取り組み

2 効率的・効果的な業務運営

(3) 職員の職務能力の向上

中期 目標	研修の充実を図り、職務、職責に応じた能力の発揮や専門性の向上に努めること。また、事務部門においては、病院経営の専門的知識や経営感覚に優れた人材を育成し、組織としての経営の専門性を高めること。
----------	---

中期計画	年度計画	令和4年度事業実績		泉佐野市	
		評価の判断理由（実施状況等）	自己評価	評価	コメント
<p>①人材育成方針・人材育成計画の策定及び推進</p> <p>職員一人ひとりがその使命を理解し、期待される役割を自ら考え行動できるよう職員の意識改革を進め、経営マインドを持った人材を育てるため、人材育成方針・人材育成計画を策定する。</p> <p>市からの派遣職員を低減できるように、人材育成計画を推進し、プロパー職員の職務能力の向上を図る。</p>	<p>①人材育成方針・人材育成計画の策定及び推進</p> <p>職員一人ひとりがその使命を理解し、期待される役割を自ら考え行動できるよう職員の意識改革を進め、経営マインドを持った人材を育てるため、本年度中に人材育成方針及び人材育成計画を策定する。</p>	<p>①人材育成方針・人材育成計画の策定及び推進</p> <p>職員一人ひとりがその使命を理解し、期待される役割を自ら考え行動できるよう職員の意識改革を進め、経営マインドを持った人材を育てるため、院内各局が参加するワーキングチームを設置し、人材育成方針・人材育成計画の策定に努めた。</p>	Ⅲ	Ⅲ	35
<p>②医療職の専門性の向上</p> <p>「泉州南部卒後臨床シミュレーションセンター」を活用し、初期・後期研修医から卒後10年目程度の若手医師をはじめ、泉州南部地域の医療を支える医療従事者を対象とした、臨床技能の習得並</p>	<p>②医療職の専門性の向上</p> <p>「泉州南部卒後臨床シミュレーションセンター」を活用し、初期・後期研修医から卒後10年目程度の若手医師をはじめ、泉州南部地域の医療を支える医療従事者を対象とした、臨床技能の習得並</p>	<p>②医療職の専門性の向上</p> <p>医療職の資格取得も含めた教育研修プログラムの整備はもとより、医療技術職についても各部門で専門性に応じた研修を実施している。また、教育研修委員会が中心となって、職種横断的な研修体制を整備し、チーム</p>	Ⅳ	Ⅳ	36

<p>びにチーム医療の充実を図る。</p> <p>診療実績や新たな知見を、学術的な研究の成果として学会及び論文での発表を推奨し、専門性の向上を図る。専門看護師及び認定看護師等の資格取得を促進し、看護職の専門性の向上を図る。</p>	<p>びにチーム医療の充実を図る。</p> <p>診療実績や新たな知見を、学術的な研究の成果として学会及び論文での発表を推奨し、専門性の向上を図る。専門看護師及び認定看護師等の資格取得を促進し、看護職の専門性の向上を図る。</p>	<p>医療の充実に向けた取り組みを行うとともに、多職種による症例検討会を定期的で開催した。</p> <p>泉州南部卒後シミュレーションセンターでは、トレーニングプログラムを用意し、原則、事前申請により利用することができる。また、2つのプログラムは予約なしにシミュレーション機器を開放し、自由に利用できるよう工夫している。</p> <p>医療技術職についても各部門で専門性に応じた研修を充実させた。特に新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、依然として研修会等がウェビナー形式で開催され受講の機会が増え、旅費の削減により多くのスタッフが受講できた。</p> <p>また、タスクシフト・タスクシェアを推進し医師の負担を軽減しつつ、医療技術者がより専門性を活かせるように業務範囲の拡大を行うための法改正が行われた。それに伴い、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士は、厚生労働大臣が指定する研修の受講が開始し、多くのスタッフが動画の視聴を中心とした基礎研修の受講に取り組んだ。</p> <p>看護局においては、コロナ禍の体制により、一般病棟においても平時に比してより重症な患者を受け入れた。その状況に対応するために、急変対応の充実を目指した新たなワ</p>			
---	---	--	--	--	--

		<p>ーキング体制とし、全病棟を対象として強化した。</p> <p>また急性期病院における治療とケアの移行時に発生する、患者や家族の意思決定を支えるシステム構築の取り組みを開始した。つなぎ目が途切れないための連携のあり方や、多様なエリアで個人のニーズにいかに関与できるかをポイントとした。</p> <p>周辺地域に対しては、エキスパート研修として対面式で行っていた学習を継続させるために、オンラインで実施できるよう準備を整えて地域を巻き込んだ看護の質向上に努めた。</p>			
<p>③事務職の資質向上</p> <p>社会環境の変化に伴い、複雑・多様化、高度化する病院課題を的確に捉え、その解決に向け、柔軟かつ積極的に挑戦し、「考動」できる事務職の養成を図る。計画的なジョブローテーション等を行い、医事部門から管理部門まで幅広く活躍できる人材を育成する。</p>	<p>③事務職の資質向上</p> <p>社会環境の変化に伴い、複雑・多様化、高度化する病院課題を的確に捉え、その解決に向け、柔軟かつ積極的に挑戦し、「考動」できる事務職の養成を図る。計画的なジョブローテーション等を行い、医事部門から管理部門まで幅広く活躍できる人材を育成する。</p>	<p>③事務職の資質向上</p> <p>事務局の人材育成計画を策定し、全ての事務職員の『基礎能力（主体性・課題発見力・実行力）』『事務能力』を向上し、計画的なジョブローテーションを行うための人材育成に努めた。</p>	III	III	37

		【関連指標】			
		区 分	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値
		指導医数（延人数）	65人	56人	73人
		専門医数（延人数）	168人	161人	212人
		認定医数（延人数）	91人	75人	56人
		専門看護師数	4人	4人	3人
		認定看護師数	21人	21人	22人
		学会発表件数※	268件	173件	285件
		論文等掲載件数※	150件	178件	176件
		※印は前年度の病院年報データ集計値			

第3 財務内容の改善に関する取り組み
1 資金収支の改善

中期 目標	公的使命を果たせる経営基盤を確保するため、キャッシュ・フローを重視し、資金収支の黒字を維持すること。また、資金収支の改善にあたっては、市の負担を減らし、自立できるよう努めること。
----------	---

中期計画	年度計画	令和4年度事業実績		泉佐野市	
		評価の判断理由（実施状況等）	自己評価	評価	コメント
市から交付される運営費負担金のもと、ふるさと納税・メディカルプロジェ	市から交付される運営費負担金のもと、ふるさと納税・メディカルプロジェ	令和4年度の財務状況としては、医業収益では、入院・外来とも、新型コロナウイルス	Ⅲ	Ⅲ	38

<p>クト（医療環境整備）の寄附拡充のための広報等に取り組み、高度医療、救急医療及び小児医療などの政策医療を安定的かつ継続的に提供できるよう、医業収益の向上と経費の節減に努め、単年度収支の黒字化と資金収支の改善を図る。</p>	<p>クト（医療環境整備）の寄附拡充のための広報等に取り組み、高度医療、救急医療及び小児医療などの政策医療を安定的かつ継続的に提供できるよう、医業収益の向上と経費の節減に努め、単年度収支の黒字化と資金収支の改善を図る。</p>	<p>感染症の影響を引き続き受けたものの、診療単価が高水準であった前年をさらに上回ったことなどにより、過去最高の収益であった前年度をさらに上回る収益となった。</p> <p>また、医業収益以外の収益については、前年度よりは大幅に減となったものの、新型コロナウイルス感染症関係の補助金が継続されたことにより、一定の収入が確保された。</p> <p>一方、費用面では、給与費では、非常勤や応援分の増などにより、また、材料費では主に注射薬などの医薬品費が増となったことなどにより、営業費用は前年度より大幅増となったものの、経常利益が10億3,700万円、当期純利益が7億8,900万円となった。</p> <p>各目標値については、医業収益の増などにより、経常収支比率が105.7%、医業収支比率が87.6%となり、ともに目標を達成することができた。</p> <p>また、キャッシュ・フローでは、前年度と比較して材料の購入による支出や人件費支出などの支出が増となったこと、及び補助金等収入や救命負担金収入が減となったが、医業収入が前年度より大幅に増となったことなどから、令和4年度においても業務活動で11億1,800万円の資金が確保することができたため、期末資金残高は前年度比3億500万円減の16億4,700万円となった。</p>			
---	---	--	--	--	--

【目標値】			【目標値】				
	令和元年度 実績値	令和7年度 目標値	区分	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値
経常収支比率	100.1%	101.8%	経常収支比率	105.1%	110.7%	100.2%	105.7%
医業収支比率	88.9%	92.6%	医業収支比率	82.9%	86.6%	86.7%	87.6%
			備考：経常収支比率は、経常収益÷経常費用 医業収支比率は、医業収益÷(医業費用＋一般管理費)				

第3 財務内容の改善に関する取り組み
2 収入の確保と費用の節減
(1) 収入の確保

中期 目標	病床稼働率の向上及び診療報酬改定等への的確な対処により収益を確保するとともに、未収金の未然防止・早期回収など、収入の確保に努めること。
----------	---

中期計画	年度計画	令和4年度事業実績		泉佐野市	
		評価の判断理由（実施状況等）	自己評価	評価	コメント
①収入の確保 病床が限られているため、地域医療連携により病床の回転数を上げ、地域の重症患者を効率的により多く治療することにより収入を確保する。救急患者や紹介患者の確保にも努め、病床稼働率の向上を図る。また、施設基準の取得など診	①収入の確保 救急患者や紹介患者の確保に努め、病床稼働率の向上を図る。また、施設基準の取得など診療報酬の改定や関係法令の改正等に迅速かつ的確に対応し、収益の確保を図る。	①収入の確保 新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた令和2年度に対し、令和3年度は過去最高となる稼働額となり、令和4年度はさらにそれを上回る稼働額の確保ができた。 令和4年度は診療報酬改定があり、多職種からなる診療報酬改定WGを立ち上げ、施設	Ⅲ	Ⅲ	39

<p>療報酬の改定や関係法令の改正等に迅速かつ的確に対応し、収益の確保を図る。</p>		<p>基準の積極的な取得を目指した。その結果、新たな施設基準の主な項目だけでも、約1.6億円/年増収となった。</p> <p>救急患者は、令和3年度より、依頼件数及び応需件数は増加した。また、入国制限の緩和にともない、訪日外国人の救急外来受診についても増加傾向である。</p> <p>外来稼働額については、点数が高い注射薬剤の使用や新型コロナウイルス検査の増加等により34億円に迫る稼働額となった。入院については、新入院患者はコロナ禍以前の水準には戻っていないが、新規の施設基準取得や令和3年度より稼働率が回復しており、115億円を超える稼働額となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入院患者数 9,293 人 (前年度 9,238 人) ・入院・外来稼働額 <p>R3 月平均稼働額 1,195,327 千円/月 R4 月平均稼働額 1,246,373 千円/月 (R4 月平均目標額 1,144,661 千円/月)</p>			
<p>②請求漏れ・未収金発生防止</p> <p>診療報酬請求におけるチェック体制を強化し、請求漏れや減点の防止に努めるとともに、未収金の発生防止策や少額訴訟制度の活用など法的措置を含めた回収を行う。</p>	<p>②請求漏れ・未収金発生防止</p> <p>診療報酬請求におけるチェック体制を強化し、請求漏れや減点の防止に努めるとともに、未収金の発生防止策や弁護士事務所と情報共有し少額訴訟制度の活用など法的措置を含めた回収を行う。</p>	<p>②請求漏れ・未収金発生防止</p> <p>診療報酬の請求漏れについては、医療マネジメント課職員が高額レセプトに対し事前点検を実施し、DPC算定と出来高算定との差が生じているレセプトには、適切なコーディングがされているか点検している。また、前日退院した患者のリストアップをし、算定</p>	<p>III</p>	<p>III</p>	<p>40</p>

		<p>内容を確認している。その他、診療材料の算定漏れがないか、業者と協力し確認をしている。</p> <p>減点の防止については、月に1度保険調整会議で減点内容を確認し、診療報酬及びD P C 適正管理委員会で多職種との情報共有をしている。高額な減点に対しては、直接診療科と面談し、個別事例の次回診療報酬の請求に向けての対策を協議している。毎月、保険診療ニュースで診療科ごとの減点や注意点を掲載し、院内に周知している。</p> <p>未収金については、医療マネジメント課職員の早期介入を行い、必要であれば各種手続きの代行等を実施し未収金の発生防止に努めている。回収については、専任の職員を配置するとともに、回収困難な場合は弁護士事務所に委託をし、早期回収に努めた。</p>			
--	--	---	--	--	--

【目標値】			【目標値】				
分	令和元年度 実績値	令和7年度 目標値	区分	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値
病床稼働率(一般)	92.7%	93.9%	病床稼働率(一般)	79.1%	80.2%	84.4%	83.6%
入院患者数	128,223人	129,620人	入院患者数	109,120人	110,611人	116,500人	115,048人
入院診療単価	83,005円	86,371円	入院診療単価	91,262円	99,228円	91,447円	99,761円
手術件数	4,469件	4,500件	手術件数	3,951件	3,996件	4,080件	3,800件
平均在院日数	12.1日	11.9日	平均在院日数	12.0日	11.0日	11.9日	11.4日
外来患者数	205,860人	205,945人	外来患者数	179,501人	196,857人	198,913人	204,400人
外来診療単価	14,305円	15,315円	外来診療単価	15,398円	15,691円	15,496円	16,185円
新入院患者数	9,769人	10,234人	新入院患者数	8,488人	9,238人	9,000人	9,293人

第3 財務内容の改善に関する取り組み

2 収入の確保と費用の節減

(2) 費用の節減

中期 目標	職員全員がコスト意識を持って、人件費率や材料費比率の目標管理や経費削減の徹底など、費用の節減に努めること。
----------	---

中期計画	年度計画	令和4年度事業実績		泉佐野市	
		評価の判断理由(実施状況等)	自己評価	評価	コメント
①業務の効率化・業務委託の適正化 市場調査に基づく価格交渉の継続実	①業務の効率化・業務委託の適正化 市場調査に基づく価格交渉の継続実	①業務の効率化・業務委託の適正化 価格交渉の継続的な実施や消費管理を行	Ⅲ	Ⅲ	41

<p>施、在庫管理の徹底、多様な契約手法の活用等により、費用削減を図る。</p>	<p>施、在庫管理の徹底、多様な契約手法の活用等により、費用削減を図る。</p>	<p>うなど費用削減を図った。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により非償還物品の使用量が継続的に増加していることと、高額な償還品を伴う患者数の増加により、償還物品額も増加した。</p> <p>業務委託については、病院の全契約をリスト化して全体を把握、不要及び類似した契約がないか等検証を継続した。契約更新時には担当部署と契約手法や仕様内容見直し等協議を行うことで費用節減に努めた。</p>			
<p>②後発医薬品の使用促進</p> <p>適正な後発医薬品の使用促進により、患者の負担軽減と法人の費用節減に努める。</p>	<p>②後発医薬品の使用促進</p> <p>適正な後発医薬品の使用促進により、患者の負担軽減と法人の費用節減に努める。</p>	<p>②後発医薬品の使用促進</p> <p>薬事審議会で後発医薬品の導入を推進しており、使用率は年度計画の目標を達成することができた。さらに高額医薬品である生物製剤等に関しても、後発品であるバイオシミラーを導入し費用の削減に努めた。</p> <p>※バイオシミラー・・・バイオ後続品と言われ、先発品の複雑な構造を生物の力を使って作られた医薬品</p>	IV	IV	42
<p>③消耗品費等の経費節減の徹底</p> <p>職員のコスト意識を高め、経費節減の徹底を図る。</p>	<p>③消耗品費等の経費節減の徹底</p> <p>職員のコスト意識を高め、経費節減の徹底を図る。</p>	<p>③消耗品費等の経費節減の徹底</p> <p>「節電・節水、紙の節約のお願い」のチラシや節電チェックリストを活用し、光熱水費の節減や消耗品の節約など職員へ周知し経費削減に努めた。</p>	III	III	43

<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>令和元年度 実績値</th> <th>令和7年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>後発医薬品使用率</td> <td>90.3%</td> <td>90.3%</td> </tr> <tr> <td>材料費比率</td> <td>27.3%</td> <td>27.0%</td> </tr> <tr> <td>経費比率</td> <td>17.1%</td> <td>16.3%</td> </tr> <tr> <td>職員給与費比率</td> <td>62.5%</td> <td>60.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【目標値】</p>	区 分	令和元年度 実績値	令和7年度 目標値	後発医薬品使用率	90.3%	90.3%	材料費比率	27.3%	27.0%	経費比率	17.1%	16.3%	職員給与費比率	62.5%	60.6%					
	区 分	令和元年度 実績値	令和7年度 目標値																	
	後発医薬品使用率	90.3%	90.3%																	
	材料費比率	27.3%	27.0%																	
	経費比率	17.1%	16.3%																	
職員給与費比率	62.5%	60.6%																		
【目標値】																				
	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値																
後発医薬品使用率	89.7%	91.7%	90.3%	92.2%																
材料費比率	29.1%	29.4%	29.6%	30.6%																
経費比率	18.2%	17.4%	17.2%	17.2%																
職員給与費比率	67.6%	62.7%	62.6%	60.6%																
備考：材料費、経費、職員給与費の各比率は、医業収益に対する各費用の割合。後発薬品使用率は使用量ベース																				

第4 その他業務運営に関する重要事項
1 感染症対策

中期目標	<p>特定感染症指定医療機関として、近接する関西国際空港で海外から持ち込まれる新たな感染症の発生などに対応できる体制の確保その他の危機管理機能の充実を図ること。また、新型コロナウイルスなど地域での感染症対策の核となる役割を果たすべく、地区医師会と連携協力しながら対応できる体制を確保すること。なお、感染拡大に伴い病院経営が悪化する場合は、その影響を最小限にするとともに、感染終息後の病院経営を回復させるあらゆる手立てを講じること。</p>
------	---

中期計画	年度計画	令和4年度事業実績	泉佐野市
------	------	-----------	------

		評価の判断理由（実施状況等）	自己評価	評価	コメント
<p>関西国際空港に近接する立地から、特定感染症指定医療機関として専門スタッフを確保するとともに、救命救急センターと連携して危機管理機能の充実を図る。</p> <p>新興感染症から地域の住民を守り、感染症対策の指導的役割を果たすため、市、地元医師会、検疫所、保健所等と連携協力し必要な体制を確保する。</p> <p>経営への影響を最小限に留めるため、新型コロナウイルス等への診療等に関する情報を共有し、全職員で院内感染対策を徹底するとともに、国・府・市と連携し、経営回復のための方策を講じる。</p>	<p>関西国際空港に近接する立地から、特定感染症指定医療機関として専門スタッフを確保するとともに、救命救急センターと連携して危機管理機能の充実を図る。</p> <p>新興感染症から地域の住民を守り、感染症対策の指導的役割を果たすため、市、地元医師会、検疫所、保健所等と連携協力し必要な体制を確保する。</p> <p>経営への影響を最小限に留めるため、新型コロナウイルス等への診療等に関する情報を共有し、全職員で院内感染対策を徹底するとともに、国・府・市と連携し、経営回復のための方策を講じる。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症においては地域での感染対策の指導的役割を果たすため、地元医師会、検疫所、保健所、市などと連携協力しながら対応できる体制を整備した。新型コロナウイルス感染症患者への対応として、「地域外来・検査センター（PCRセンター）」でのPCR検査やワクチン接種業務を継続実施し、また、陽性患者、特に重症患者等も積極的に受け入れるために体制整備を図るなど、病院の総力を挙げて特定感染症指定医療機関としての役割を果たした。</p>	IV	IV	44

第4 その他業務運営に関する重要事項
2 国際医療交流拠点づくり地域活性化総合特区の活用及び協力

中期目標	りんくうタウンにおいて、地域活性化総合特区の事業として国際医療交流の推進が図られているなか、引続き、医療通訳の確保及び育成に努めるとともに、外国人患者への医療サービスの充実を図り、関係医療機関と協力して、りんくうタウンのまちづくりに寄与するよう努めること。
------	--

中期計画	年度計画	令和4年度事業実績		泉佐野市	
		評価の判断理由（実施状況等）	自己評価	評価	コメント

<p>外国人患者への医療サービスの充実を図るため、関係医療機関と協力し、遠隔医療通訳システム、医療通訳者の確保及び養成などの環境整備について取り組む。</p>	<p>外国人患者への医療サービスの充実を図るため、関係医療機関と協力し、遠隔医療通訳システム、医療通訳者の確保及び養成などの環境整備について取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ J M I P 更新受審に向けて、病院内のマニュアルを見直し、改訂版を作成、イントラネットに掲載した。 ・ 災害時の外国人対応の体制強化のため、災害時医療対策委員会と協力して、マニュアルの改訂を行った。 ・ 当院の外国人患者対応のノウハウを地域医療機関に共有し、地域全体で外国人の健康問題を解決できるよう、転院や地域の医療機関への紹介を行った。 転院実績数：7件 地域医療機関への助言や調整件数：20件 ・ 令和4年度大阪大学医療通訳養成コースの実習を11～12月に行った（受講者14名）。また、大阪大学医療通訳養成コースの座学講師として国際診療科より5名が参加した。 ・ コロナ禍のため対面研修を控え、ビデオを2件作成（「数字で見るベトナムの妊娠出産文化」、「イスラムの礼拝」）、e-learningシステムによる職員研修を行った。院内受講者数はベトナムの医療事情30名、イスラムの医療事情65名であった。 ・ 翻訳文書に関わる課題を整理し、翻訳文書選定の基準や翻訳方法を選定し、翻訳文書に関する基準を策定した。 ・ 対面・遠隔通訳のどちらを希望するのか、医療スタッフとの意思疎通の課題について調 	<p>III</p>	<p>III</p>	<p>45</p>
---	---	---	------------	------------	-----------

		<p>査するため、患者向けと医療者向けの双方にアンケート調査を実施した。同じ内容の質問に対する双方の回答を比較して、どのような意見の隔たりがあるのか、あるいは一致点があるのかなどを分析、今後の対応改善に活かしていく。</p>			
--	--	--	--	--	--

第4 その他業務運営に関する重要事項
3 コンプライアンスの推進

中期 目標	<p>医療法や労働諸法令など関係法令を遵守するとともに、内部統制を着実に推進し適切な業務運営を行うこと。また、適切な情報管理と情報セキュリティ対策を講じるとともに、職員への周知を徹底すること。</p>
----------	--

中期計画	年度計画	令和4年度事業実績		泉佐野市	
		評価の判断理由（実施状況等）	自己評価	評価	コメント
<p>内部監査の強化のほか、「業務マニュアル」や「リスク対応マニュアル」の整備を行い、リスク管理を推進するとともに、情報セキュリティ体制の強化に取組み、内部統制の充実を図る。</p> <p>全職員が医療従事者としてふさわしい倫理観を持ち、医療法をはじめとした関係法令への理解が深まるように研修会等を開催する。</p>	<p>内部監査の強化のほか、「業務マニュアル」や「リスク対応マニュアル」の整備を行い、リスク管理を推進するとともに、情報セキュリティ体制の強化に取組み、内部統制の充実を図るため、「内部統制本部・内部統制課」を設置する。</p> <p>令和3年度から検討・作成を進めている事務局内の業務マニュアル等につき、実際の業務のなかで活用するとともに、内容のブラッシュアップを図り、業務改善に繋げていく。</p>	<p>医療環境の変化に対応し、経営基盤を支える組織体制を構築するため「内部統制本部・内部統制課」を設置し、内部監査の強化やハラスメントに対する対応等コンプライアンスの推進に努めた。また、災害、事故、テロ、サイバー攻撃等あらゆる危機に対応するため危機管理室の設置に取り組んだ。</p> <p>事務部門における業務マニュアルの作成率については、前年度89.0%となっていたが、今年度ですべて作成が完了した。今後は、実際の業務のなかで活用するとともに、内容</p>	III	III	46

	全職員が医療従事者としてふさわしい倫理観を持ち、医療法をはじめとした関係法令への理解が深まるように研修会等を開催する。	のブラッシュアップを図り、業務改善に繋げていくものである。 事務部門においてコンプライアンスへの認識を高めるため、「職業倫理とコンプライアンス」の研修を実施した。			
--	---	--	--	--	--

第4 その他業務運営に関する重要事項

4 地域医療構想への対応について

中期目標	地域の医療需要等を踏まえ、適正な病床数や医療機能の分化について検討するとともに、病院の医療資源や医療機能の効果的・効率的な活用を検討すること。また、地域医療全体の機能向上のため、医療連携や広域連携について検討するなど、地域医療構想への対応については市に協力すること。
------	---

中期計画	年度計画	令和4年度事業実績		泉佐野市	
		評価の判断理由（実施状況等）	自己評価	評価	コメント
地域の医療需要等を踏まえ、経営改善の観点から、病院の医療資源や医療機能等の効果的・効率的な活用を検証する。 市からの求めに応じて、地域医療全体の機能向上のための医療連携や広域連携の在り方について、国の動向を注視し、検討する。	地域の医療需要等を踏まえ、経営改善の観点から、病院の医療資源や医療機能等の効果的・効率的な活用を検証する。 市からの求めに応じて、地域医療全体の機能向上のための医療連携や広域連携の在り方について、国の動向を注視し、検討する。	新型コロナウイルス感染症患者の対応等を通じて、地域の医療需要や各病院の役割から、日頃からの病院間の協力・連携体制の必要性を改めて感じた。 地域医療の確保や機能向上のための医療連携や広域連携の在り方を検討していくにあたり、各種会議を通じて積極的に意見交換するなど、各病院の状況把握等に努めた。	Ⅲ	Ⅲ	47